

## 1 法人の概要

## 2 事業の概要

### (1) 平成24年度の主な事業の概要

### (2) 教育研究の概要

- ① 学部学科組織
- ② 教員組織及び教員数並びに教員の学位等に関する情報
- ③ 学部・学科の学生定員及び在籍学生数等(学部)
- ④ 教育課程に関する情報
- ⑤ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報
- ⑥ 学習環境に関する情報
- ⑦ 学生納付金に関する情報
- ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

## 3 財務の概要

### (1) 財務の概要

### (2) 財産目録

### (3) 貸借対照表

### (4) 収支計算書

- ① 資金収支計算書
- ② 消費収支計算書

### (5) 監査報告書

## 2013 年度法人の概要

### ◎目的

教育基本法及び学校教育法に従い、芸術立国の志によって世界の恒久平和に寄与し、これに資する人材の育成を目的とする。

京都文藝復興 <http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/philosophy/bungei/>

### ◎沿革

1934 年 藤川衣服研究所開設

1947 年 財団法人藤川衣服研究所認可

1951 年 学校法人の認可

1959 年 学校名を藤川服飾学院に、学校法人名を藤川学園に改称

1964 年 藤川デザイン研究所設立

1967 年 藤川デザイン研究所を藤川デザイン学院と改称

1975 年 藤川服飾学院を京都服飾芸術学院、藤川デザイン学院を京都造形芸術学院と改称

1977 年 京都芸術短期大学（造形芸術学科）を設置

短期大学開設に伴い、京都服飾芸術学院、京都造形芸術学院を廃止

1979 年 専攻科を設置（「学士」学位が取得可能に）

学校法人名を瓜生山学園に改称

1991 年 京都造形芸術大学（芸術学部）を設置

1996 年 大学院芸術研究科（修士課程）を設置

1998 年 通信教育部（芸術学部）3 学科 8 コースを設置

2000 年 京都造形芸術大学、京都芸術短期大学を統合し、総合芸術大学に再編

大学院芸術研究科芸術文化研究専攻、芸術表現専攻（修士課程）、芸術専攻（博士課程）  
を設置

2001 年 京都芸術劇場を開設

2002 年 通信教育部（芸術学部）を 3 学科 11 コースに改組

2003 年 通信教育部（芸術学部）を 3 学科 12 コースに改組

2005 年 こども芸術大学を開設

康耀堂美術館が本学に寄贈される

2007 年 通信教育部大学院修士課程を設置

芸術学部を 10 学科 29 コースに全面改組

社会芸術総合研究所を開設

2009 年 芸術学部を 10 学科 31 コースに改組

通信教育部（芸術学部）を 3 学科 13 コースに改組

2011 年 芸術学部を 13 学科 34 コースに改組

通信教育部（芸術学部）を 3 学科 14 コースに改組

2013年 京都国際観光文化学院と法人統合

芸術学部を13学科21コースに改組

通信教育部（芸術学部）に芸術教養学科を設置

◎設置する大学（2013年5月1日現在）

- ・設置者 学校法人瓜生山学園
- ・所在地 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号
- ・理事長 徳山詳直
- ・設置する大学 京都造形芸術大学  
学長 尾池 和夫

◎役員及び教職員に関する情報（2013年5月1日現在）

役員		教員		職員	
理事	17名	教授	132名	法人	10名
評議員	35名	准教授	67名	大学	172名
監事	3名	講師	19名		

◎役員一覧（2013年5月1日現在）

- ・理事  
理事長 徳山 詳直  
副理事長 古澤 茂堂  
専務理事 徳山 豊  
常務理事 大野木 啓之  
学長 尾池 和夫  
五十嵐 眞二  
上村 博  
小川 後楽  
片上 義則  
北村 誠  
熊谷 尚之  
坂元 徹  
高久 正史  
椿 昇  
西崎 義雄  
根岸 吉太郎  
水谷 幸正
- ・監事  
斉藤 利一郎  
松芝 政雄  
湊 信明

## ■平成24年度事業報告

平成 24 年度は通学課程ならびに通信教育課程共に、改革に向けた準備期間と位置づけそれぞれの課題に取り組んだ。また、法人としての機能強化ならびに学園の教育研究環境の充実を目指し、「京都文藝復興」をともに提唱するグループ校の京都芸術デザイン専門学校ならびに京都文化日本語学校を設置する学校法人京都国際文化観光学院と法人合併することを決議した。

### I. 通学課程

#### ■芸術学部

##### ①教育改革の進捗

平成 24 年度は、平成 26 年度カリキュラム改革に向けての準備を行った。

平成 24 年 6 月には、「カリキュラム検討委員会」から、数値目標として進路決定率 90%を目指すカリキュラム改革の基本フレームが提案され、常任理事会及び代表教授会にて審議され承認を受けた。教育目標を再設定した上で、「ふたつの力と7つの能力」の育成をディプロマ・ポリシーとして定義し、カリキュラムを「専門教育課程」「キャリア創出課程」「基礎教養課程」の3つの課程とすることとした。このカリキュラム改革に向けて、学科・課程毎のカリキュラムツリー・マップの作成を行い、平成 25 年度には、7つの能力を評価指標とするトライアル科目 74 科目 130 クラスを設けることとなった。

教員の教育力向上に向けての活動として、「教育力向上プロジェクト」の第一期の研修時間は年間 60 時間以上になり、学生理解、コーチング技法の修得などを実践的な体験を通じて学び、外部講師による授業参観など、充実した教育力育成プログラムが展開された。更に、「学習学」の視点を取り入れ、一般教養カリキュラム改革及び授業改善に向けての活動も始まり、平成 25 年度のベーシックワークショップ科目において FA 講習や授業内で修学基礎について学ぶ時間を導入することとした。平成 24 年度に初めて実施した 1・3 年生対象の「基礎学力テスト」から基礎学力の不足が明らかとなり、その結果を踏まえ平成 25 年度の英語及び国語関連科目の内容の設計を行った。

その他にも、平成 25 年度入学生からの「CAP 制」の導入を決定し、ガイダンスの大幅な見直しを行った。「授業アンケート」は、授業評価に加え、学生の取組姿勢を問う内容に変更した。

また、姉妹校である東北芸術工科大学の副学長を教育改革担当理事として迎え、教育改革に向けての連携をとり、従来から行っている交流事業に加え、合評及び卒業制作展時の教員交流も新たに実施した。

18.3%であった中途退学・除籍率(平成 19 年度入学生)は、平成 23 年度以降の指導方法の改善の効果が少しずつみられるようになり、平成 24 年度終了時での状況は、1 年生 4.7%(平成 23 年度同時期比▲1.1%)、2 年生 9.6%(同▲0.6%)、3 年生 14.1%(同▲0.2%)、4 年生 16.0%(同▲0.7%)、と全学年で減少した。

平成 24 年度新入生は 852 名となり新入生在籍者数が 3,135 名となった。平成 25 年度は 844 名の新入生が入学し、在籍者数は 3,193 名と過去最高になった。

## ②進路決定状況

平成 24 年度芸術学部卒業生の進路決定率((就職+進学)/卒業生)は 80.2%。総合芸術大学化以降の最高値を 3 年連続で更新した。求人データベース強化の結果、平成 24 年 5、12 月の合同企業説明会は合計で、過去最多の 106 社が参加した。来場学生数も前年比 2 倍強の、延べ 523 名(前年度 254 名)となった。学生へのキャリアガイダンスの回数増やキャリアデザインセンターの制度改革(就活学生をきめ細かに指導していく会員登録制度導入など)により、平成 24 年度の相談件数は 1,854 件(前年度 1,488 件)と 24.6% 増加。また、4 回生後期以降、専任教員が毎月、進路未決定学生の面談を行い、情報を毎回代表教授会で共有した結果、就業力意識の高まりを学生だけでなく、教職員全体で実感することができた。平成 25 年 1 月 6 日には学生の就業力育成を教育の柱とする主旨の「就業力宣言」が行われ、大学を挙げてのキャリア指導體制は本格的に整いつつある。この就業力宣言を受けて、平成 25 年度にははじめて、入学式に保護者を対象としたキャリアガイダンスを行い、新入生ガイダンスにもキャリアプログラムを盛り込むなど、入学から卒業までの、一貫したキャリア支援活動がスタートする。さらに、これらの取り組みを持続的なものとするため、平成 26 年度実施に向けたカリキュラム改革ではその成果指標として「進路決定率 90%」が掲げられた。

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
就職・教職	177	267	365	406
家業・起業・個人事業主	9	35	25	53
小計	186	302	390	459
進学(大学院)	64	74	43	41
留学・その他進学	23	26	37	35
小計	87	100	80	76
その他	211	217	185	120
未記入・未提出	11	8	8	12
合計	495	627	663	667
進路決定率	55.2%	64.1%	70.9%	80.2%

## ③学生募集

平成 25 年度入学者の学生募集は、総志願者数 2,936 名(前年比 649 名減、81.9%)と前年を下回った。ただし、総志願者数の減少の主要因は、平成 24 年度までの 13 学科 33 コース体制から、13 学科 21 コース体制への変更に伴い、同一学科内の併願ができなくなったことによるところが大きい。その要因となったコース再編の目的は、志願者のコース選択を明確にし、出願時の進路意識をさらに高めることで、入学者の水準を本学が求める一定基準まで向上させることにあった。また、平成 25 年度から段階的に実施するカリキュラム改革を前提に、コースごとに細分化されたカリキュラムだけではなく、全学および学科ご

との共通プログラムをより効果的に実施できる体制づくりもコース再編の目的であった。

資料請求者は、16,301名(前年比340名増、102.1%)、オープンキャンパスの受験学年来場者は、2,295名(前年比15名減、99.3%)となった。オープンキャンパスに参加した受験学年来場者の受験率は65%と、オープンキャンパスの企画の成否を測る指標として挙げられる60%を上回る。しかし、コミュニケーション入学のエントリー受け付け開始が8月と遅くなった影響から、「志願者と早期に接触→出願」という募集セオリーが単純には通用しなくなっている。早期に接触した志願者と、出願時期まで継続して本学の教育内容や理念を伝え続ける継続した接触機会の設計が今後はより求められる。

## ■大学院

平成24年度は、修士課程で65名(学術9名、芸術56名)、博士課程2名(学術1名、芸術1名)が学位を取得した。修士課程においては、昨年と同数ではあるが、これまでで最も多い学位取得者となった。一方で博士課程においては、近年では最も少ない取得者数であった。平成24年度入学生の内24名が留学生となり、11カ国(地域)の学生が在籍することとなった。平成25年度入学生は、更に増え過去最高の26名が留学生となっている。

運営としては、学部からの6年一貫教育を視野に入れて、学内の全教員が指導教員となる体制を、平成22年度からスタートさせ3年目となり、平成25年度教育計画については、学部との連携を更に強化し、各専門領域が関係する学科研究室との調整の上で策定を行なった。また、平成25年度に過去5年分の「終了生状況調査」を行うことを決定し、大学院としてのキャリア教育の取組強化を図る事とした。

平成24年9月には、東北芸術工科大学との共同で、大学院サマーキャンプ(東京)が開催され、本学からは6名、東北芸術工科大学大学院からは5名が参加した。

平成25年度入学生の大学院学生募集は、「学外・留学生募集」の強化および「学内(ペインティング領域)」の安定確保を目的として学生募集活動を実施。その結果、修士課程および博士課程の総志願者数は、131名(前年比13名増、111.0%)と4年連続の増加となった。特に留学生については、留学生対象説明会を大阪、東京で開催し、日本語学校にも積極的に募集活動を行った結果、過去3年間で、13名(平成23年度)、33名(24年度)、53名(25年度)と狙い通りの募集結果につながっている。ペインティング領域は、学内の学部在学学生向けの領域説明会を実施し、昨年大きく減少した状況から(平成23年度29名、24年度14名、25年度19名)、やや回復傾向が見られた。

## II. 通信教育課程

### ■通信教育部芸術学部

#### ①芸術教養学科開設準備

平成24年度は、平成10年度の通信教育部開設以来、初めての学科設置となる芸術教

養学科開設準備に取り組んだ。芸術教養学科では、一度もスクーリングに出席することなく卒業できるカリキュラムとなっており、その要となるメディア利用による授業(Web Schooling=WS 科目)の教材開発が重点課題となった。WS 科目は学部共通専門教育科目において芸術史講義 16 科目 32 単位、学科専門教育科目において芸術教養講義 10 科目 20 単位の開講が必要となる。それぞれの科目について、動画 75 本(1 本 3~5 分)、テキスト 1 冊(A5 判 200~250 頁)の開発が必要となり、複数の関係会社と共同しながら業務を推進した。教材の製作にあたっては、今回のケースのようにデジタルコンテンツ(動画・静止画)を大量に配信利用することが国内で初めてのケースということもあり、法律も未整備であったことからその著作権処理に時間を要した。また、動画とテキストを同時に利用して web 上で学習を進めるという新しい学習形態から、動画、テキスト、学生同士の交流(SNS)、質疑応答、web テストなどをどのように組み合わせれば学習効果が最も高くなるのか、試行錯誤しながらの開発となった。また、学習上の要件を固めた上で、新たにシステムの開発も実施し、新しく通信教育部を開設するのと同等の業務が発生し、同時に学科の新設であることから文部科学省への設置認可申請作業もおこなった。結果、平成 25 年度入学生として 581 名を迎え、4 月 1 日より学生たちは順調に学習を開始している。

なお開発した教科書は、東北芸術工科大学と共同で設置した出版局「藝術学舎」より順次市販される予定である。

## ②既存 3 学科の改善

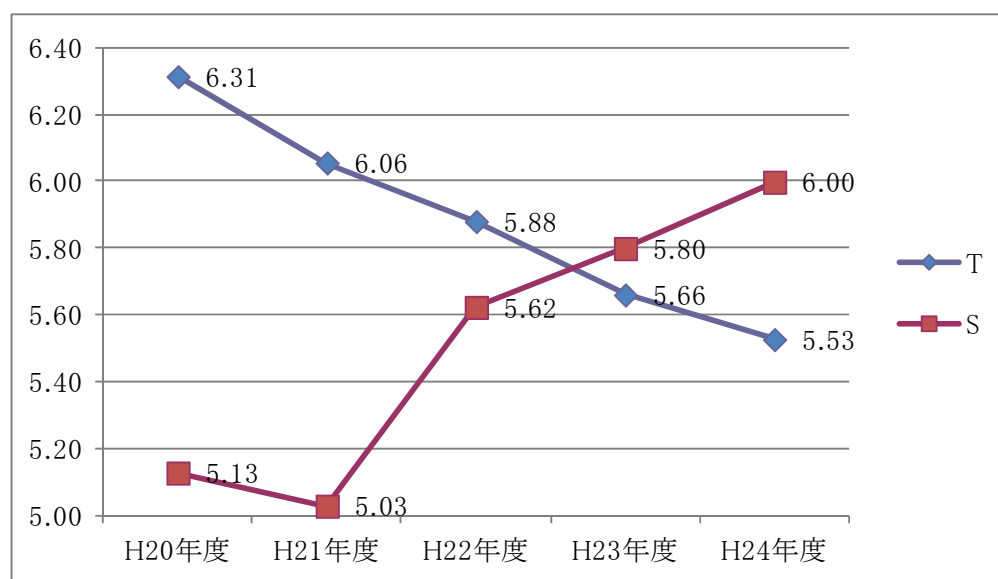
芸術学科・美術科・デザイン科の既存 3 学科においては、これまでの改革のブラッシュアップの他、シラバスの改訂(全課程共通フォーマット化)等に取り組んだ。前段の芸術教養学科開設と、既存学科の取り組みにより、平成 24 年度の在籍者数 5,139 名が平成 25 年度は 5,739 名と前年比 600 名増加した。

既存 3 学科では、より幅の広い社会人の積極的な受入を目指し、様々な改革(異分野 3 年次編入学、スクーリング 2 日間化、東京完結スクーリング、外苑キャンパスおよび大阪サテライトキャンパスの整備、東京藝術学舎および大阪藝術学舎との連携など)を推進してきた。その結果、入学者の多様化が進んでいるが、これら改革と学生へのきめ細やかな対応により、学生一人当たりの年間単位修得数は 11 単位を超えており維持できている。テキスト科目とスクーリング科目の内訳を見ると、テキスト科目の修得単位数は減少傾向にあるものの、スクーリング科目の習得単位数が増加傾向にある。テキスト科目修得単位の減少は、芸術学科およびデザイン科における異分野 3 年次編入学の導入により、総合教育科目テキスト科目卒業要件が減少したことによる。スクーリング科目の修得単位数の増加は、学生の興味関心にあわせた科目の開講したこと、平成 22 年度 7 月より外苑キャンパスを開設し東京でのスクーリング開講数が 35%、延べ受講者数が 29%増加(平成 23 年度と平成 21 年度の比較)したこと、藝術学舎受講による単位認定(平成 24 年度認定総単位数 1,269 単位)が増加していることによる。

◇学生一人当たりの年間単位習得数

		H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
芸術学科	T	5.61	5.95	5.48	5.17	5.31
	S	5.31	5.15	5.43	6.05	6.09
	計	10.92	11.09	10.91	11.23	11.40
美術科	T	7.36	6.94	6.65	6.35	6.20
	S	5.91	6.03	7.11	7.17	7.68
	計	13.27	12.96	13.76	13.52	13.88
デザイン科	T	5.53	5.15	5.37	5.34	5.03
	S	4.10	3.83	4.22	4.30	4.31
	計	9.63	8.98	9.59	9.64	9.34
学部合計	T	6.31	6.06	5.88	5.66	5.53
	S	5.13	5.03	5.62	5.80	6.00
	計	11.44	11.08	11.50	11.46	11.52

◇学部合計学生一人当り年間修得単位数 ST 内訳



③学生募集

平成 25 年度入学の学生募集は、総出願者数 1,870 名(前年比 620 名増、149.6%)となった。新たに立ち上げた芸術教養学科は、志願者数 593 名と 1、3 年次入学定員合計の 460 名を上回る。そして、既存学科は、1,277 名(前年比 27 名増、102.2%)となり、平成 19 年度以降最高の出願数だった昨年度をさらに上回る結果となった。

新学科の立ち上げに伴う積極的な広報展開に加え、昨年度より継続して行っている通信教育部での学びの魅力や喜びを繰り返し伝える広報(DM、メルマガ、説明会での体験授業、一日体験入学の実施)が重層的に寄与し、単独説明会の来場者が 2,099 名(前年比 505 名増、131.7%)と大幅な増加となり、結果最終的な出願者の増加にもつながった。



#### ■大学院 芸術研究科[通信教育] 芸術環境専攻

平成 24 年度は、82 名の入学生を迎え在籍者が 172 名となった。修了制作研究の結果、芸術環境研究領域 14 名、美術・工芸領域 34 名、環境デザイン領域 23 名の計 71 名が修士の学位を取得した。

芸術環境研究領域においては、研究指導体制の充実ときめ細やかな学生指導を目指し、研究ジャンルを「美学・芸術理論」「西洋美術史」「日本美術史」「日本芸能史」「日本文化史」「喫茶文化史」「文芸研究」「創作文芸」「芸術計画・教育普及」と明確化し、平成 25 年度より実施することとなった。

このことを受け、芸術環境研究領域の志願者数が 44 名と前年の 31 名から増加し、平成 25 年度入学生は 84 名、在籍者数が 176 名と過去最多となった。

### Ⅲ. こども芸術大学

平成 24 年度は、入学生 15 組(うち編入学生 2 組)、5 月 1 日現在の在籍者は 42 組となった。また年度末には卒業生 13 組を送り出し、卒業生は総勢 68 組となった。本年度はこども芸術大学の保育・教育力の向上、こども芸術大学の理念の普及・浸透をはかることを目的に、地域の親子を対象とする子育て支援セミナーを 3 回実施し 173 名が参加した。多様な形式のセミナーを実施することで、地域貢献の一翼を担えたと同時に、職員の能力開発もはかることができた。今後も継続して実施していく予定。またメディアとのタイアップ企画を実施し、「生活から生まれる新しい造形活動 子どもとアート」(小学館)が平成 25 年 4 月に発行された。

### Ⅳ. 外苑キャンパス

平成 24 年 4 月の大阪藝術学舎の開設にともない、東京藝術学舎、大阪藝術学舎の 2 つの学舎の総称を”藝術学舎”として、一体的に教育事業を展開していく態勢を整えた。

本年度の実績は、東京が講座開講数 155 講座(前年度比 107%)、受講生数 3,036 名(前年度比 113%)、受講料収入 75 百万円(前年度比 117%)、大阪が講座開講数 62 講座、受講者数 1,085 名、受講料収入 19 百万円となっており、前年比で増加している。さらに特徴的な傾向が、キャンパス通学圏外の受講生の増加である。東京藝術学舎では、通学圏内の受講生が前年度比で 110%の伸び率であったのに対して、その他地域の受講生は 137%の伸び率を示している。特に大阪藝術学舎については、全体の受講生数の 4 分の 1 をキャンパス通学圏外の受講生が占めている。この藝術学舎の教育活動の広がり結果、学舎の受講者から平成 25 年度に通信教育課程へ入学した学生は 95 名となった。同時に平成 24 年度の通信教育部在学生の学舎受講による認定単位総数は 1,269 単位となり、藝術学舎と

通信教育部の連携が進んでいる。

外苑キャンパスにおけるスクーリング開講数は 381 講座(前年度比 96%)、延べ受講者数 7,113 名(前年度比 98%)となっている。外苑キャンパス開設前年度平成 21 年度の開講数 298、延べ受講者数 5,645 名となっていることから大幅に増加している。

東北芸術工科大学との共同事業として、9 月には大学院サマーキャンプ(外苑キャンパス)が開催され、本学からは 6 名、東北芸術工科大学大学院からは 5 名が参加した。さらに 10 月から、「日本の美術教育を考える」をテーマとした連続シンポジウムを 4 回開催した。また、合同事業として外苑キャンパスに「藝術学舎出版」を 10 月に設立した。

## V. 国際交流

平成 24 年度より、国際交流事業と留学生支援事業を統合して「留学センター」を設置した。これにより、日本人学生の海外派遣・海外留学生の獲得・留学生と日本人学生の交流という包括的な海外戦略を立案できる体制が整備された。

### ①学生の海外派遣促進

海外派遣促進のため、交換留学協定校を 7 校から 11 校へ増やし、派遣枠を 16 名から 31 名に拡大した。また、韓国芸術総合学校との夏期共同ワークショップの第 2 回目を実施。海外研修ツアーでは、新たにイタリア絵本研修ツアー、オーストラリア英語研修を立ち上げ、海外派遣者数を増やした。また、交流協定校である弘益大学校主催の国際美術祭に選抜学生の作品を出展した。

大学が提供する海外派遣プログラムによる派遣者数は 71 名となった。内訳は交換留学(ジュネーブ造形芸大、マサチューセッツ造形芸大、コンストファック、弘益大学校、韓国芸術総合学校 計 7 名)、海外研修ツアー(4 ツアー、51 名)、蒼山会海外体験補助 5 名、弘益大学校国際美術祭出席 8 名となっている。

### ②英語力・異文化適応力の養成

英語学習プログラム(英語自習ソフトロゼッタストーン、TOEFL 講座、TOEIC 講座など)参加者数は延べ 818 名となった。そのほか、学内国際交流プログラム(国際交流学生サポートスタッフ、国際交流プロジェクトレクチャー、交換留学生受入)参加者数は延べ 638 名となった。海外派遣に関する情報提供とサポートによる学生との接触数は延べ 1,145 名であった。

### ③学生募集との連携

本学が目指す近隣の東アジアの国々との芸術を通じた交流活動を目標とし、学生募集活動と国際交流活動との連携を入学課、海外事務所と共有した。8 月には中国事務所(上海事務所)を立ち上げ、既存の上海レジデンスを利用して、上海でアートサロンの開催、卒

業展に中国人アーティストを招聘してトークイベントを実施した。

## VI. 研究センター・産官学連携

### ・舞台芸術研究センター

舞台芸術研究センターでは、企画製作した、伊藤キムダンスプロジェクト『go-on ～からだの森をゆく～』、「マラルメ・プロジェクトⅢ『イジチュール』の夜へー「エロディアド」／「半獣神」の舞台からー」をはじめ16の主催公演、1共催公演と2つの研究会を実施し、刊行物『舞台芸術17号』を企画・編集した。平成21年度から5年間にわたる「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」を継続する一方、研究事業の次の展開を期して、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」や文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業」等、新たな競争的資金獲得のための準備に取り組んだ。

### ・日本庭園・歴史遺産庭園研究センター

日本庭園・歴史遺産研究センターの日本庭園研究部門では『大学との連携による未指定文化財庭園の調査(京都市)』ほか計17事業及び1公開講座(単年度総受託費:40百万円)、歴史遺産研究部門では『国立民族学博物館「標本資料の保存管理手法の研究」』など5事業及び1公開講座(単年度総受託費:4.3百万円)となった。

### ・ものづくり総合研究センターおよびプロジェクトセンター

ものづくり総合研究センター及びプロジェクトセンターでは、42件の受託案件(一部助成を含む)を実施。主な受託事業として、二条城ライトアップ、アパレル大手の(株)ワールドのウィンドウディスプレイデザインと子供向けワークショップイベントなどの空間演出デザインや、東山区、大山崎町、鳥取市等での地域振興プロジェクト等を前年より継続して実施。それらの取り組みが評価を得て、新たにコクヨ(株)との商品開発や虎屋ギャラリー展示、京都市と連携した伏見・中書島地域でのアートフェスタなども実施した。特にこれらはプロダクトデザイン学科、こども芸術学科、歴史遺産学科など学科教育とも連動した運営を行った。案件数は前年度とほぼ変わらないが、受託事業収入としては平成19年度に次ぐ60百万円となった。

### ・京都文藝復興倶楽部

京都文藝復興倶楽部では、本学教員や各界の第一線で活躍している方々を迎え、平成23年度より2ヶ月に一度サロンを開催している。各回設定したテーマを基にレクチャーと交流会を開催し、会員企業間の交流を活発に行った。また、京都の職人調査もプロジェクトセンターと連携し継続中である。

## Ⅶ. その他大学附置機関からの芸術活動発信

### ・京都芸術劇場

平成 24 年度、京都芸術劇場「春秋座」では、大学主催、舞台芸術研究センター主催、その他外部使用を含む 45 の公演・シンポジウムが行われ、延べ 17,924 名の来場者となった。その他、授業使用が 53 日、大学行事使用が 31 日、公演の仕込み・稽古使用が 72 日あり、高い稼働率を維持している。また学生がフロントスタッフや搬入・搬出のアルバイトで参加し、研修の場としても積極的に活用されている。また studio21 では、卒業制作公演 5 本、授業発表 5 本、その他企画 8 本に 4,970 名の来場者があり、このほか、授業での積極活用が続いている。

### ・康耀堂美術館

康耀堂美術館では 4 回のコレクション展と在学生の巡回展や卒業生の特別展を開催するほか、コンサートやワークショップ等 8 回のイベントを実施。前年度を 4% 上回る 5,801 名の来館者を迎え、カフェの利用者数も増加傾向にある。前年に引き続き茅野市教育委員会と連携した体験授業の実施と制作作品の展示、鑑賞授業と児童作品の展示を実施。また今年度より茅野市ミュージアム活性化事業に参加し、文化資源の活用による観光復興と活性化、地域市民の文化力向上を目指した活動を開始した。ミュージアム活性化事業の更なる展開と教育機関との連携強化により、地域市民との交流の場を拡げるとともに、在学生及び卒業生企画や地元作家の展覧会、イベント開催、カフェのサービス向上により新規来館者、リピーターの増加に努める。

### ・芸術館

平成24年度はリニューアルオープンした芸術館の本格的なスタートとなった。主な事業として、所蔵品の縄文土器・シルクロードの工芸品・豊原国周の浮世絵を総合的に展示するコレクション展と、浮世絵・縄文土器の特別展を開催した。縄文土器に関しては夏に再調査を行い、そのお披露目として展覧会を開催。これは平成 9 年の開館以来初めてのコレクションによる縄文土器展となった。これら展覧会の総来場者数は 2,551 名であった。その他、夏季休館中に教員免許状更新講習、縄文土器類の再調査と撮影、通学部の博物館実習、通信教育部のスクーリング、学生作品展(キャラクターデザイン学科)を実施した。

### ・ギャラリー・オーブ

ギャラリー・オーブでは 9 つの展覧会を開催し、総入場者数は 16,217 名と、平成 23 年度の 2 倍以上となった。学生の日頃の成果や教員作品等の学内発表の場として定着をみせている。また平成 24 年度は、芸術表現・アートプロデュース学科に 3 枠の企画を委

ね、学外からも著名な作家を招いた企画展が行われたことも特徴的である。

このほか、前年度に続き通学部・通信教育部の卒業制作展や学生主体のイベント、学外団体主催の展覧会 2 件の会場としても活用された。さらに、伊藤キムのダンスプロジェクト公演会場としても使用され、ギャラリー空間の新たな用途が拓かれた。

#### ・芸術文化情報センター

開館日数 310 日、年間利用者数は 126,572 名(内在学生は延べ 105,076 名)であった。全体の利用者数は前年比 8.5%減であったものの、教育課程・教員と連携して図書館活用促進に取り組んだ結果、1, 2 回生については前年度に引き続いて、入館者数、貸出件数ともに増加した。特に貸出点数は 8.5%の増加となり、図書資料を活用した学習者が徐々に回復しつつある。なお、減じた利用者の大半は、通学部上回生と通信教育部低回生であるが、前者は入学時からの低調な利用状況が回復しておらず、後者は居住地の図書館活用が増加していること、また編入学者数が増加し、教養科目に係る利用が減少していることによる。

#### ・瓜生山エクステンションセンター

一般公開講座 68 講座に対して、延べ 1,750 名が受講し、20 百万円の収入となった。また、引き続き「臨床美術士資格講座」及び「臨床美術士研修会」を開講し、13 講座に対して延べ 191 名が受講した。これとは別に、企業提携の受託講座として学外施設で 3 講座を開講し、計 15 名が受講した。

### VIII. 震災復興支援

震災復興支援関係の事業を本年度も継続して行った。自宅が全壊、半壊した通学課程の学生への奨学金事業を継続、また、東北芸術工科大学と協働で実施している「こども芸術の家」プロジェクトは、活動記録をまとめた本が出版された。5 月に行われた「女川アートサポート」プロジェクトでは、332 点の作品全てが被災住民の方々に渡され、その他にも、学生独自のボランティア活動も、蒼山会の支援を受け実施された。

### IX. 施設改修中期計画

平成 24 年度は既存校舎の改修を集中的に実施した。松麟館第一期改修工事(防水・空調など)、高原校舎非構造部材耐震工事(補助金対象事業)、青窓館防水・空調工事、中央監視盤整備を実施し、総額 580 百万円(内 117 百万円補助金)の工事を実施した。また次年度にまたがる、松麟館第二期改修工事(非構造部材耐震工事)、直心館耐震工事に着手した。この二つの工事はいずれも補助金対象事業となっている。

# ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

【2007 ～ 2010年度の入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース
			クリエイティブ・ライティングコース
		歴史遺産学科	文化遺産コース
			文化財保存修復コース
		映画学科	映画監督コース
			映画技術コース
			プロデュースコース
			映画俳優コース
		舞台芸術学科	舞台芸術コース
			演技演出コース
			ダンスコース
			舞台デザインコース
		美術工芸学科	日本画コース
			洋画コース
			立体造形コース
			陶芸コース
		染織テキスタイルコース	
		こども芸術学科	こども芸術コース
		キャラクターデザイン学科	アニメディレクションコース
			キャラクターデザインコース
			CGデザインコース
		情報デザイン学科	コミュニケーションデザインコース
			イラストレーションコース
			映像メディアコース
			プランニングディレクションコース
			先端アートコース
空間演出デザイン学科	空間デザインコース		
	ファッションデザインコース		
	プロダクトデザインコース		
環境デザイン学科	環境デザインコース		
	建築デザインコース		
	インテリアデザインコース		
	ランドスケープデザインコース		

# ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

## 【2011年度からの入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	美術工芸学科	日本画コース
			油画コース
			染織テキスタイルコース
			現代美術コース
			総合造形コース
			写真コース
		マンガ学科	マンガコース
		キャラクターデザイン学科	アニメディレクションコース
			キャラクターデザインコース
			CGデザインコース
		情報デザイン学科	コミュニケーションデザインコース
			イラストレーションコース
			映像メディアコース
			先端表現デザインコース
		プロダクトデザイン学科	生産デザインコース
			くらしプロダクトコース
		空間演出デザイン学科	空間デザインコース
			ファッションデザインコース
			ジュエリー&アクセサリーコース
		環境デザイン学科	建築コース
			インテリアデザインコース
			ランドスケープデザインコース
		映画学科	映画監督コース
			映画技術コース
			プロデュースコース
			映画俳優コース
		舞台芸術学科	演技演出コース
舞台デザインコース			
ダンスコース			
文芸表現学科	クリエイティブ・ライティングコース		
芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース		
こども芸術学科	こども芸術コース		
歴史遺産学科	文化財保存修復コース		
	文化遺産コース		

# ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

## 【2013年度からの入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	美術工芸学科	日本画コース
			油画コース
			染織テキスタイルコース
			現代美術コース
			総合造形コース
		マンガ学科	ストーリーマンガコース
		キャラクターデザイン学科	キャラクターデザインコース
		情報デザイン学科	情報デザインコース
			イラストレーションコース
		プロダクトデザイン学科	プロダクトデザインコース
		空間演出デザイン学科	空間デザインコース
			ファッションデザインコース
		環境デザイン学科	建築・インテリア・環境デザインコース
		映画学科	映画製作コース
			俳優コース
舞台芸術学科	演技・演出コース		
	舞台デザインコース		
文芸表現学科	クリエイティブ・ライティングコース		
芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース		
こども芸術学科	こども芸術コース		
歴史遺産学科	文化財保存修復・歴史文化コース		



# ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

## 【通信教育部及び大学院】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	通信教育部芸術学部	芸術学科	芸術学コース
			歴史遺産コース
			文芸コース
			和の伝統文化コース
		美術科	日本画コース
			洋画コース
			陶芸コース
			染織コース
			写真コース
			アニメーションコース
		デザイン科	情報デザインコース
			建築デザインコース
			ランドスケープデザインコース
	空間演出デザインコース		
	芸術研究科	芸術教養学科	
		芸術専攻（博士後期課程）	
		芸術文化研究専攻（修士課程）	
芸術表現専攻（修士課程）			
芸術研究科（通信教育）	芸術環境専攻（修士課程）	芸術環境研究領域	
		美術・工芸領域	
		環境デザイン領域	

## ② 教員組織及び教員の保有学位、業績に関する情報

下記リンク先に記載

<http://www.kyoto-art.ac.jp/info/teacher/>

### ③ 学生に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 者数	編入学者数		収容 定員	入学 定員	編入学定員		在学 者数	在 籍 学 生 数				編入学 生数 (内数)	男女比率 男：女	卒業者数		進学 者数	就職 者数	備 考
			2年次	3年次			2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	4年次			9月卒業	3月卒業			
										学生数	学生数	学生数	学生数							
芸 術 学 部	美術工芸学科	148	0	2	588	145	1	2	463	154	161	148	/	5	2:8	/	/	/	/	2011年度入学生からの課程
	マンガ学科	53	1	0	139	45	1	2	144	53	45	46	/	1	5:5	/	/	/	/	
	キャラクターデザイン学科	79	0	3	208	50	1	2	204	79	68	57	/	3	3:7	/	/	/	/	
	情報デザイン学科	131	0	2	480	115	1	6	383	135	129	119	/	2	2:8	/	/	/	/	
	プロダクトデザイン学科	47	1	3	124	40	1	2	136	50	46	40	/	4	6:4	/	/	/	/	
	空間演出デザイン学科	71	1	3	240	50	1	2	181	71	57	53	/	4	1:9	/	/	/	/	
	環境デザイン学科	58	1	1	210	45	1	2	168	58	56	54	/	4	5:5	/	/	/	/	
	映画学科	82	1	0	268	65	1	2	237	82	78	77	/	1	5:5	/	/	/	/	
	舞台芸術学科	50	0	0	148	35	1	2	132	53	36	43	/	0	2:8	/	/	/	/	
	文芸表現学科	35	0	0	72	24	0	0	115	35	44	36	/	0	4:6	/	/	/	/	
	芸術表現 ・アートプロデュース学科	28	0	1	101	20	0	1	77	28	32	17	/	1	2:8	/	/	/	/	
	子ども芸術学科	21	0	0	128	30	1	2	77	21	30	26	/	0	2:8	/	/	/	/	
	歴史遺産学科	41	1	3	130	30	0	1	117	41	43	33	/	4	1:9	/	/	/	/	
	芸術表現 ・アートプロデュース学科	-	/	/	-	-	0	5	53	-	3	6	44	1	4:6	2	28	2	18	2007～2010年度入学生の課程 (2年次編入学は2011年度、3年 次編入学は2012年度まで受け入 れ)
	歴史遺産学科	-	/	/	-	-	2	2	45	-	0	1	44	3	3:7	3	32	5	19	
	映画学科	-	/	/	-	-	2	2	77	-	0	4	73	1	6:4	6	71	7	56	
	舞台芸術学科	-	/	/	-	-	2	2	37	-	0	2	35	0	3:7	4	35	10	26	
	美術工芸学科	-	/	/	-	-	2	2	174	-	1	9	164	3	2:8	3	136	31	73	
	子ども芸術学科	-	/	/	-	-	2	2	38	-	0	1	37	0	1:9	-	24	0	20	
	キャラクターデザイン学科	-	/	/	-	-	2	2	56	-	1	4	51	0	2:8	-	42	2	31	
情報デザイン学科	-	/	/	-	-	4	8	124	-	1	7	116	6	2:8	4	120	7	99		
空間演出デザイン学科	-	/	/	-	-	2	4	106	-	0	7	99	3	3:7	-	90	4	73		
環境デザイン学科	-	/	/	-	-	2	4	49	-	0	3	46	6	5:5	-	67	8	44		
芸術学部計		844	6	18	2,836	694	30	59	3,193	860	831	793	709	52	3:7	22	645	76	459	

### ③ 学生に関する情報

芸術学部	教員一人当たり学生数：18.89人 収容定員充足率：112.59% 社会人学生数：社会人入学試験制度は実施していない
	<p><b>【アドミッション・ポリシー：求める学生像および入学者選抜の基本方針】</b> 本学は「芸術的創造と哲学的思索によって良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造」という建学理念を掲げて設立された。この建学の理念から導かれる教育目標を「芸術を社会に活かすことのできる人材の育成」としている。</p> <p>芸術教育は、ともすれば自己表現の達成に重点が置かれがちであるが、社会で通用する人材として活動していくためには、専門的な能力以上に、社会人として求められる基礎力、人間力を身につける必要がある。そのため 1. 芸術によって社会に貢献しようとする高い志と意欲を持ち、2. 自立した1人の人間として、3. 他者と協調・協働しながら、4. 芸術的創造活動を展開できる力を養うことをめざし、学生への徹底をはかっている。</p> <p>アドミッション・ポリシーの基本は、このことを実践できる基本的素養を備えた学生を受け入れることにあり、「芸術を学ぶ意欲と社会貢献をめざす高い使命感をもった学生の受け入れ」をアドミッション・ポリシーとして定めた。そのため、表現技術の優劣だけにとらわれず、評価基準の異なる複数の入学試験を実施して多様な学生を選抜している。</p> <p><b>【2014年度入学試験受け入れ方針】</b> 〈夏期コミュニケーション入学・秋期コミュニケーション入学〉 1. 京都造形芸術大学で自分の可能性を伸ばす意欲のある人 2. あらゆる役割の中でクラスの中心となり引っ張っていきける人 3. 常に向上心を持ち、何事にも積極的に取り組むことのできる人 4. 他者の意見にも耳を傾け、良好なコミュニケーションをとることができる人 5. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p> <p>〈公募制推薦入学試験・一般入学試験・体験授業型一般入学試験〉 1. 京都造形芸術大学で学ぶに必要な基礎的な知識・技術を持った人 2. 知識・技術を習得するために努力してきた人 3. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p> <p>〈大学入試センター試験利用入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）〉 1. 基礎教養を持ち、学力の高い人 2. 勉学に積極的に取り組んできた人 3. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p>
	<p><b>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】</b> 株式会社A0I Pro、ADKアーツ、株式会社クロスカンパニー、株式会社ケイ・ウノ、コナミデジタルエンタテインメント、株式会社カプコン、株式会社中川政七商店、株式会社フェリシモ、ゼブラ株式会社、株式会社ワールドコーポレーション、株式会社ガイナックス 株式会社ボーネルンド TBSビジョン、アシックス商事 他</p>

### ③ 学生に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 者数	編入学者数		収容 定員	入学 定員	編入学定員		在学 者数	在 籍 学 生 数				編入学 生数 (内数)	男女比率 男：女	卒業者数		進学 者数	就職 者数	備考
			2年次	3年次			2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	4年次			9月卒業	3月卒業			
			学生数	学生数			学生数	学生数		学生数	学生数	学生数	学生数							
通信教育部 芸術学部	芸術学科	110	2	230	520	80	10	85	1,332	110	107	255	860	729	2：8	/	103	—	—	9月卒業は導入していない
	美術科	137	206	15	1,420	200	200	10	1,770	137	343	318	972	850	3：7		167	—	—	
	デザイン科	187	9	354	1,230	200	10	200	2,147	187	129	512	1,319	1,292	4：6		130	—	—	
	芸術教養学科	304	—	277	1,380	230	0	230	581	304	0	277	0	277	4：6		—	—	—	
	通信教育部 芸術学部計	738	217	876	4,550	710	220	525	5,830	738	579	1,362	3,151	3,148	3：7		400	—	—	
教員一人当たり学生数：138.8人 収容定員充足率：128.1% 社会人学生数：5,167名																				
<b>【入学に関する基本的な方針】</b> <芸術学科>文化芸術という行為に 関心を持ち、それぞれの生きる場でありながら他者と協力して問題を考えていく人の入学を期待しています。 <美術科>美術工芸の各専門分野に関心があり、地域、年齢、職業を超えた交流を積極的に推進する人材を求めます。 <デザイン科>ものづくりやデザインに関心を持ち、柔軟な思考で未来を切り開く意欲のある人の入学を期待しています。 <芸術教養学科>人類の芸術遺産とそれに関わる学術的営みを尊重し、みずから学ぶ手段を身につける意欲のある者。特にインターネットを通じた学習が可能な者を受け入れる。																				
<b>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】</b> 進路調査は行っていない。																				

### ③ 学生に関する情報

大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

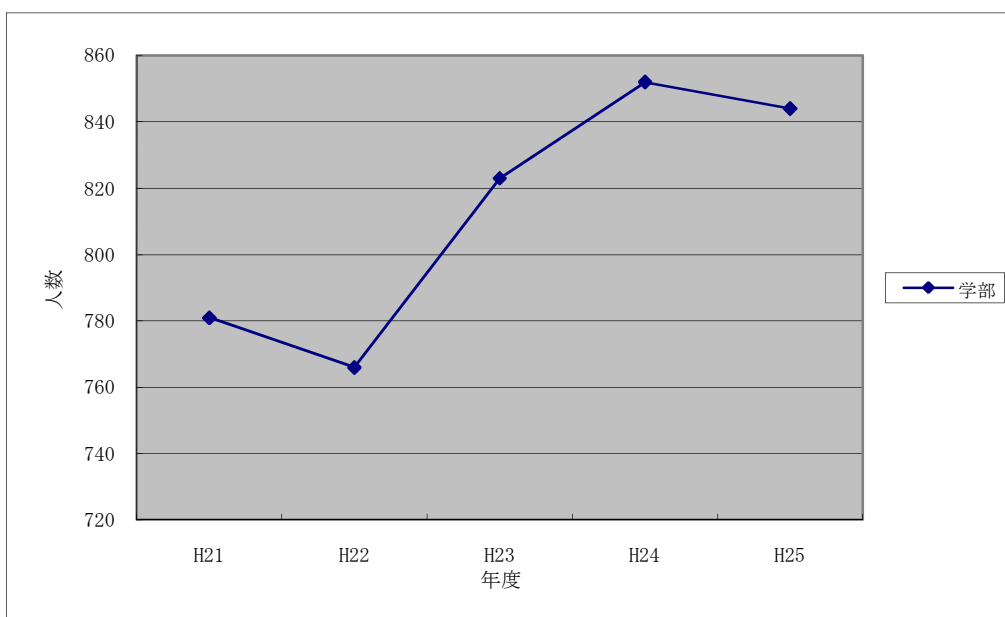
研究科	専攻	入学 者数	収容定員		入学定員		在学 者数	在籍学生数								男女比率 男：女	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	備考
			修士 課程	博士 課程	修士 課程	博士 課程		修士課程				博士課程								
								一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計					
芸術研究科	芸術文化研究専攻	4	24	—	12	—	19	17	1	1	19	—	—	—	—	1：9	9	2	3	学位授与数／9名 授与率 ／100%
	芸術表現専攻	70	96	—	48	—	135	81	7	47	135	—	—	—	—	3：7	56	4	23	学位授与数／56名 授与率 ／100%
	芸術専攻	10	—	21	—	7	21	—	—	—	—	8	4	9	21	4：6	2	0	0	学位授与数／2名 授与率 ／100%
	芸術研究科計	84	120	21	60	7	175	98	8	48	154	8	4	9	21	3：7	67	8	26	
教員一人当たり学生数：1.97人 収容定員充足率：124.11% 社会人学生数：12人																				
<p><b>【入学に関する基本的な方針】</b></p> <p>博士課程</p> <p>(1) 専門領域における広範かつ深淵な知見を有し、かつ新たな価値観の構築にむけて真摯に取り組む姿勢を有していること。</p> <p>(2) 基本的には3年間で日本語による博士論文を完成させうる研究計画と遂行力を有していること。</p> <p>(3) 外国語（基本的に英語）による専門的語学力を有していること。</p> <p>修士課程（芸術文化研究専攻）</p> <p>(1) 豊かな感性と柔軟な思考を有し、基本的には2年間で修士論文を完成させうる研究能力を有していること。</p> <p>(2) 芸術文化に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な語学力（会話及び文章）を有していること。</p> <p>(3) 外国語（基本的に英語）の基本的な読解力・表現力を有していること。</p> <p>修士課程（芸術表現専攻）</p> <p>(1) 学士課程の基礎制作をふまえ、各自の表現領域を構築し、造形思想を深めるための能力を有していること。</p> <p>(2) 芸術表現に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な文書作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有していること。</p> <p>(3) 外国語（基本的に英語）の基本的な読解力・表現力を有していること。</p> <p><b>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】</b></p> <p>国立民族学博物館、あべのハルカス（学芸員）、株式会社FM. B e e、株式会社光影堂、株式会社貴和製作所、高砂電器産業、浜田染工、株式会社現代ランドスケープ、株式会社オサマジョール、現代総合研修院株式会社、関西文化芸術学院（教員） 等</p>																				

### ③ 学生に関する情報

大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

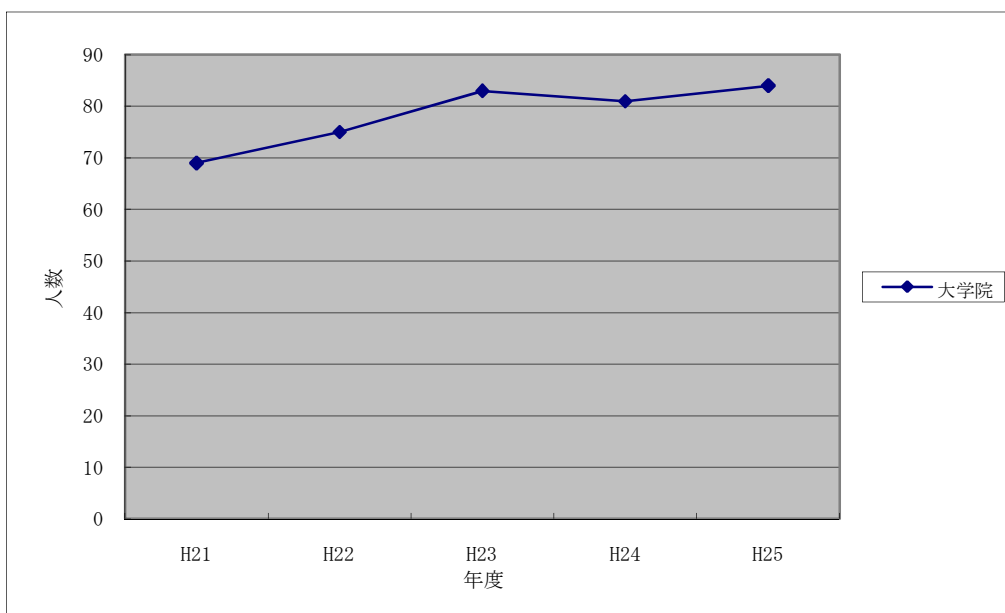
研究科	専攻	入学 者数	収容定員		入学定員		在学 者数	在籍学生数								男女比率 男：女	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	備考
			修士 課程	博士 課程	修士 課程	博士 課程		修士課程				博士課程								
								一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計					
芸術研究科 (通信教育)	芸術環境専攻 (修士課程)	80	160	—	80	—	176	176	—	—	176	—	—	—	—	4 : 6	71	—	—	学位授与数／71名 授与率 ／100%
	芸術研究科 (通信教育) 計	80	160	—	80	—	176	176	—	—	176	—	—	—	—	4 : 6	71	—	—	
	教員一人当たり学生数：19.6人 収容定員充足率：110.0%																			
	<b>【入学に関する基本的な方針】</b> 文化芸術に関心を寄せ、さらに一歩踏み込んで文化芸術の当事者たらんとする意思を備えた人の入学を期待する。 1、専門分野の学びはもちろん、人間・自然・社会の諸事象についての学びをおろそかにしない人。 2、ベーシックなトレーニングをいとわない人。 3、自分が生活する地域から学び、学びの成果を地域に返していこうとする人。																			
<b>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】</b> 進路調査は行っていない。																				

### 通学部入学者推移（5ヵ年）



(単位：人)

	H21	H22	H23	H24	H25
学部	781	766	823	852	844

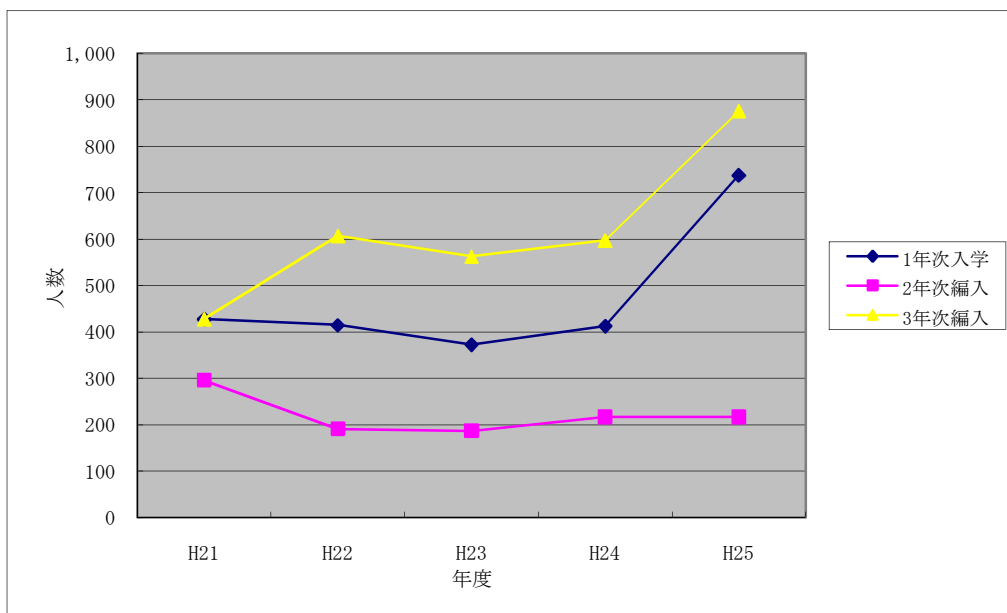


(単位：人)

	H21	H22	H23	H24	H25
大学院	69	75	83	81	84



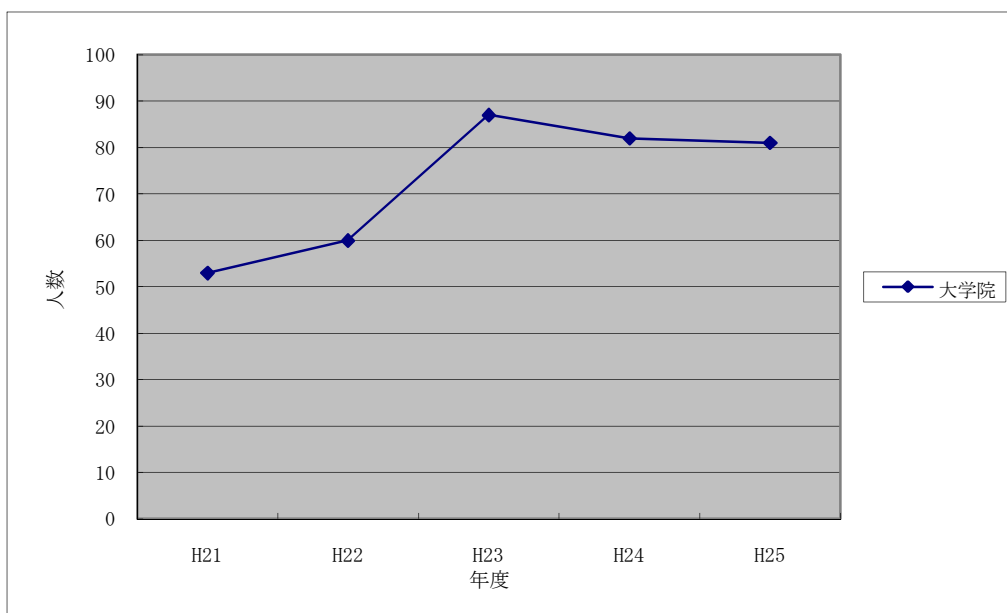
## 通信教育部 入学者推移 (5ヵ年)



(単位：人)

学部	H21	H22	H23	H24	H25
1年次入学	428	415	373	413	738
2年次編入	296	191	187	217	217
3年次編入	428	607	563	597	876

※ 入学確定者数のため、5月1日現在の学生数との間に差異が生じる場合があります。



(単位：人)

	H21	H22	H23	H24	H25
大学院	53	60	87	82	81

## ④ 教育課程に関する情報

### 【通学部】

在学生専用サイトに情報を掲載

<http://www.kyoto-art.ac.jp/student/teaching/syllabus.html>

### 【通信教育部】

電子シラバスとして一部をホームページ上で公開

[http://kirara.cyber.kyoto-art.ac.jp/syllabus\\_and\\_documents/syllabus\\_open/index.php](http://kirara.cyber.kyoto-art.ac.jp/syllabus_and_documents/syllabus_open/index.php)



## ⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関する情報

年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

■2007～2010年度入学生の実要件（2007年度入学生は、4年次単位数のみの進級要件を設定）

学部・学科	年次	芸術学部									
		芸術表現・アート・プロデュース学科		歴史遺産学科		映画学科		舞台芸術学科		美術工芸学科	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	「舞台表現基礎Ⅰ」「舞台表現基礎Ⅱ」を修得済みであること。	30単位	「美術基礎ⅠⅡⅢⅣ」のうち12単位以上を含むこと。
	3年次	54単位	1年次必修専門科目を含むこと。但し、2年次編入の場合は上記要件は適用されない。	48単位	必修専門科目1科目を含むこと。	46単位	—	なし	「舞台芸術Ⅱ」を修得済みであること。	62単位	「美術基礎ⅠⅡⅢⅣ」と他の専門科目の合計24単位以上を含むこと。但し、2年次編入の場合は専門科目の合計16単位以上を含むこと。
	4年次	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—
卒業の要件 (単位数)		124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上

学部・学科	年次	芸術学部													
		子ども芸術学科		キャラクターデザイン学科		情報デザイン学科		空間演出デザイン学科		環境デザイン学科					
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	2009・2010年度生		2007・2008年度生			
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	20単位	専門科目20単位以上修得済みであること。	なし	—	16単位	1年次必修専門科目を含んで、専門科目合計16単位以上修得済みであること。	なし	—	なし	—	なし	—	なし	「デザイン基礎Ⅰ」「デザイン基礎Ⅲ」を修得済みであること。「測量演習」を修得済みであること。
	3年次	40単位	専門科目40単位以上修得済みであること。	なし	「CG技法Ⅰ」「CG技法Ⅱ」を修得済みであること。	32単位	2年次必修専門科目を含んで、専門科目合計32単位以上修得済みであること。但し、2年次編入生は2年次専門必修科目を含んで、専門科目合計16単位以上修得済みであること。	なし	「デザイン基礎Ⅱ」を修得済みであること。	なし	—	「環境デザインⅠ」「環境デザインⅡ」「環境デザインⅢ」を修得済みであること。	—	「環境デザインⅠ」「環境デザインⅡ」「環境デザインⅢ」を修得済みであること。	
	4年次	90単位	—	90単位	「キャラクターアニメーションⅡ」を履修済みであること。但し、3年次編入生は上記要件を適用しない。	90単位	2年次編入生の場合は、3年次必修専門科目を含んで専門科目合計が32単位以上、3年次編入生の場合は3年次必修専門科目を含んで16単位以上修得済みであること。	90単位	—	90単位	「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」「環境計画Ⅲ」を修得済みであること。但し、2009年度2年次編入生及び2010年度3年次編入生は「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」を修得済みであること。	90単位	「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」を修得済みであること。但し、2007年度入学生には上記要件は適用されない。		
卒業の要件 (単位数)		124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目68単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目65単位以上		



## ⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関する情報

年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

	学部・ 学科 年次	芸術学部通信教育部							
		芸術学科		美術科		デザイン科		芸術教養学科	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
年間履修登録 単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
	3年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
	4年次	90単位 [3年次編入生は32単位以上]	専門教育科目 (T科目:20単位以上 S科目:18単位以上) 「論文研究1.2」必修*1	90単位 [2年次編入学生は50単位以上]	学部共通専門教育科目:8単位以上 コース専門演習T科目:12単位以上 コース専門演習S科目:18単位以上	80単位(ランドスケープデザインコースは90単位以上) [3年次編入学生は36単位以上(建築デザインコースの3年次編入学生は40単位以上)]	学部共通専門教育科目:8単位以上(建築デザインコースは12単位以上)*2 コース専門演習T科目:16単位以上 コース専門演習S科目:12単位以上	122単位	「卒業研究」履修までに、 総単位数:122単位以上 (専門教育科目58単位以上 (うちWebスクーリング科目30単位以上)合格済み)
卒業の要件 (単位数)	124単位 (S科目:30単位以上) [3年次編入生は62単位以上]	専門教育科目:60単位以上 (T科目:28単位以上、S科目:24単位以上) 「論文研究1.2」「卒業研究」必修*1	124単位 (S科目:30単位以上) [2年次編入学生は84単位以上]	学部共通専門教育科目:20単位以上 [2年次編入学生は12単位以上] 「造形基礎演習1.2」必修 コース専門演習T科目:16単位以上 コース専門演習S科目:24単位以上	124単位 (S科目:30単位以上) [3年次編入生は62単位以上(建築デザインコースの3年次編入生は70単位以上)]	学部共通専門教育科目:12単位以上(建築デザインコースは22単位以上)*3 コース専門演習T科目:24単位以上 コース専門演習S科目:24単位以上	124単位 [3年次編入生は62単位以上]	専門教育科目(学部共通専門教育科目、学科専門教育科目):60単位以上 (うちWebスクーリング科目30単位以上) 「卒業研究」必修	

\*1歴史遺産コースは上記に加え「京都市」「史料演習」必修

\*2:建築デザインコースの新カリキュラム【2009年度(1年次入学)、2010年度(1年次入学、2年次編入学)】は、「住宅概論」「都市概論」「建築史1(近代)」「建築史2(西洋)または建築史3(日本)」「建築環境工学」「建築材料」「建築設備」「建築生産」「建築法規」「構造力学1・2」の12単位選択必修。旧カリキュラムは「デザイン論」「建築計画論2」「建築史」「構造力学1・2」「建築材料・構法」「環境の保全と計画」の12単位選択必修。

ランドスケープデザインコースは、「環境の保全と計画」必修、「都市概論」、「建築史1」、「建築史2」、「建築材料」、「造園史」、「ランドスケープデザイン原論」から4単位選択必修  
空間演出デザインコースの新カリキュラム【2010年度以降の全入学生】は、「マーケティング論」「インテリア計画論1」「生活空間デザイン史」が必修。旧カリキュラム「マーケティング論」「建築計画論1」が必修。

\*3:建築デザインコースの新カリキュラム【2009年度(1年次入学)、2010年度(1年次入学、2年次編入学)】は、「住宅概論」「都市概論」「建築史1(近代)」「建築史2(西洋)または建築史3(日本)」「建築環境工学」「建築材料」「建築設備」「建築生産」「建築法規」「構造力学1・2」が必修。旧カリキュラムは「デザイン論」「建築計画論2」「建築史」「構造力学1・2」「建築材料・構法」「環境の保全と計画」が必修。

ランドスケープデザインコースは、「環境の保全と計画」必修、「都市概論」、「建築史1」、「建築史2」、「建築材料」、「造園史」、「ランドスケープデザイン原論」から8単位選択必修  
空間演出デザインコースの新カリキュラム【2010年度以降の全入学生】は、「マーケティング論」「インテリア計画論1」「生活空間デザイン史」「インテリア計画論2」「空間構成材料」が必修。旧カリキュラムは、「マーケティング論」「建築計画論1」「空間論」が必修。

## ⑥ 学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科	所在地	主な交通手段	
京都造形芸術大学	瓜生山キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川瓜生山2-116	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約15分 京都市バス 上終町京都造形芸術大学前 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 敷地面積が約66,000㎡で正面が幹線道路に面し、水景を配した大階段と柱を配したファサードで、開放的なプロティを有するキャンパスとなっている。			
		【運動施設の概要】 瓜生山キャンパスから約4Km北に位置する敷地面積、約18,500㎡の岩倉グラウンドと、体育館は瓜生山キャンパス内に広さ約980㎡で、バスケットコート2面、バレーボールコート2面を有している。			
	上終キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川上終町7-1	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約15分 京都市バス 上終町京都造形芸術大学前 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 瓜生山キャンパスと幹線道路を挟んだ向かい側にあり、敷地面積は約550㎡で2棟の校舎があるキャンパスとなっている。			
		【運動施設の概要】 運動施設は有していない。			
	高原キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川高原町25	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約5分 京都市バス 高原町 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 瓜生山キャンパスから西方に約500mはなれた場所に位置し、敷地面積は約1,900㎡で4棟の建物は専用の撮影スタジオを備える映画学科の施設である。			
		【運動施設の概要】 運動施設は有していない。			
	キャンパスマップ	<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/campusmap/">http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/campusmap/</a>			
アクセスマップ	<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#kyoto">http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#kyoto</a>				
外苑キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	東京都港区北青山1-7-15	JR総武線 信濃町駅下車 徒歩約5分 東京メトロ 青山一丁目 徒歩約8分		
	【キャンパスの概要】 明治神宮外苑の一角に位置しており、敷地面積は約4,100㎡。都心でありながら木々に囲まれた非常に恵まれた学習環境となっている。				
	【運動施設の概要】 運動施設は有していない。				
アクセスマップ	<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#tokyo">http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#tokyo</a>				
大阪サテライトキャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	大阪府北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階	地下鉄御堂筋線・阪神「梅田駅」より 徒歩3分 地下鉄谷町線「東梅田駅」より 徒歩3分 JR「大阪駅」より 徒歩5分 阪急「梅田駅」より 徒歩5分		
	【キャンパスの概要】 大阪市内の中心に位置し、交通の便にも恵まれた立地環境にある。教室面積は約470㎡。				
	【運動施設の概要】 運動施設は有していない。				
アクセスマップ	<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#osaka">http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#osaka</a>				
【課外活動の状況】 31の団体がクラブ連盟に登録している(体育系10・文科系21、正加盟24・準加盟7)。活動日および活動場所は団体ごとに設定されており、主にクラブボックス(有終館)、教室、講堂、グラウンド等で活動している。活動頻度は週1～2回のところが多い。					

## ⑦ 学生納付金に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学金		授業料		施設費		その他の費用徴収		備考
		金額	納入期限	金額	納入期限	金額	納入期限	金額	納入期限	
芸術学部	美術工芸学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	<p>・入学金及び、その他の費用徴収のうち学生保険料(4,660円)については初年度のみ。</p> <p>・授業料、施設費は一括納入の場合の期日。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。</p> <p>(※入試制度ごとの細かい設定日があるため、1年次の一括して最も遅い期日を記入)</p> <p>・2年次以降は前期授業開始前日が納入期限(但し振替の場合は3月20日)。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。</p> <p>【授業料減免制度の概要】</p> <p>■減免対象の種類・要件</p> <p>学費減免制度として、1人20万円を60名に、10万円を20名に給付。学力基準、家計基準を満たした希望者のうち、困窮度の高い学生から採用する。</p> <p>■必要手続等</p> <p>9月中旬願書配布、10月初旬提出締切。教学事務室窓口で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。</p>
	マンガ学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	キャラクターデザイン学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	350,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	情報デザイン学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	プロダクトデザイン学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	空間演出デザイン学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	環境デザイン学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	映画学科 1年次	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	330,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	映画学科 2、3、4年次	—	—	1,320,000円	2013.4.10	300,000円	2013.4.10	15,000円	2013.4.10	
	舞台芸術学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	文芸表現学科	200,000円	2013.3.19	1,050,000円	2013.3.19	100,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	芸術表現・アートプロデュース学科	200,000円	2013.3.19	1,050,000円	2013.3.19	100,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	こども芸術学科	200,000円	2013.3.19	1,320,000円	2013.3.19	300,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
	歴史遺産学科 1年次	200,000円	2013.3.19	1,050,000円	2013.3.19	130,000円	2013.3.19	19,660円	2013.3.19	
歴史遺産学科 2年次、3、4年次(文化遺産コース)	—	—	1,050,000円	2013.4.10	100,000円	2013.4.10	15,000円	2013.4.10		
歴史遺産学科 文化財保存修復コース 3、4年次のみ	—	—	1,050,000円	2013.4.10	200,000円	2013.4.10	15,000円	2013.4.10		
芸術教育 通信学部	芸術学科	30,000円	2013.4.15	231,000円	2013.4.15	—	—	—	—	<p>・本学園卒業生は入学金を免除。</p> <p>・入学金については初年度のみ。</p> <p>・2年次以降の授業料については2月末が納入期限。</p> <p>・スクーリング受講料、単位修得試験料は、受講・受験許可後に別途口座引落。</p> <p>【授業料減免制度の概要】</p> <p>■減免対象の種類・要件</p> <p>学習が通算5年以上となる場合に授業料を3割減免。</p> <p>年限退学時再入学者・卒業後再度入学者について授業料を3割減免。</p>
	美術科(日本画・洋画)	30,000円	2013.4.15	277,000円	2013.4.15	—	—	—	—	
	美術科(陶芸・染織)	30,000円	2013.4.15	300,000円	2013.4.15	—	—	—	—	
	美術科 (写真・アニメーション)	30,000円	2013.4.15	323,000円	2013.4.15	—	—	—	—	
	デザイン科	30,000円	2013.4.15	323,000円	2013.4.15	—	—	—	—	
芸術教養学科	30,000円	2013.4.15 (前期入学) 2013.10.15 (後期入学)	170,000円	2013.4.15 (前期入学) 2013.10.15 (後期入学)	—	—	—	—	<p>・本学園卒業生は入学金を免除。</p> <p>・入学金については初年度のみ。</p> <p>・2年次以降の授業料については3月20日(前期入学)、10月20日(後期入学)が納入期限。</p>	



## ⑦ 学生納付金に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

研究科	専攻	入学金		授業料		施設費		その他の費用徴収		備考
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	
芸術研究科	芸術文化研究専攻	200,000円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	927,000円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	150,000円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	1,750円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学通学部卒業生および外国人留学生は入学金を免除。</li> <li>・本学通信教育部卒業生は入学金を減免。</li> <li>・入学金については初年度のみ。</li> <li>・授業料、施設費は一括納入の場合の期日。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。</li> </ul>
	芸術表現専攻	200,000円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	927,000円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	300,000円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	1,750円	前期日程 2012.12.14 後期日程 2013.3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>【授業料減免制度について】</li> <li>・留学生奨学金(若干名)</li> <li>他の奨学金を受給していない外国人留学生が対象。2年次に前年度の成績などにより選抜。</li> <li>■特待生制度</li> <li>修士課程:年間授業料の半額を免除する。</li> <li>《1年次(2名程度)》</li> <li>前期日程入学試験出願者のうち、特待生制度の志望者を対象とする。採用期間は2年間。(1年次の就学状況や成績等が芳しくない場合は、2年目の継続を取り消す場合がある)</li> <li>《2年次(2名程度)》</li> <li>入学時に特待生に選抜されていない在学生対象。2年次への進級後、前年度の成績等により総合的に判断。</li> </ul>
	芸術専攻	200,000円	2013.3.8	927,000円	2013.3.8	150,000円	2013.3.8	2,600円	2013.3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>博士課程:授業料全額免除(各学年1名程度)</li> <li>対象者は在籍者全員。1年次は入学試験の成績、2年次以降は前年度の成績などにより選抜。</li> </ul>
(芸術研究科) (通信教育)	芸術環境専攻 (修士課程)	100,000円	2013.3.19	750,000円	2013.3.19	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目のスクーリング受講料は授業料に含む。</li> <li>・本学園卒業生は入学金を免除。</li> <li>・入学金については初年度のみ。</li> <li>・2年次以降の授業料については2月末が納入期限。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>【授業料減免制度の概要】</li> <li>■減免対象の種類・要件</li> <li>学習が通算3年目以上となる場合に授業料を3割減免。</li> <li>年限退学時再入学者・内部進学制度適用者について授業料を3割減免。</li> </ul>

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

芸術学部・芸術研究科

	組織名	機能	年間利用件数		
			平成22年度	平成23年度	平成24年度
学生への保健・衛生対応	保健センター	《機能》 学生一人ひとりが、自己の健康管理に関心を持ち、豊かな学生生活を送ることができるよう、健康支援を行なう。 《スタッフ、対応時間》 専任保健師2名 非常勤4名(医師1名－毎週月曜日、看護師3名－土曜・日曜・祝日交代勤務) 9:00～18:00(月～金曜日)※長期休暇中9:00～17:00 9:00～18:00(土・日・祝日)	6,050	6,520	7,614
カウンセリング等の面談、メンタルヘルス相談	学生相談室	《機能》 日常生活の中で起こる様々な悩みや問題について共に考え、解決するための相談を行なう。 《スタッフ、対応時間》 専任カウンセラー1名 非常勤1名(医師1名－毎週火曜日) 10:00～18:00(月～金曜日) ※年間利用件数については、平成24年度より医師の面談件数を含む	421	312	721
就職支援、進学支援	キャリアデザインセンター	《機能》 就職や進学について個別相談や個別指導を行うとともに、大学全体の学生支援策を立案する。求人や企業説明会について企業開拓を行うとともに、企業と学生とのコーディネートも行う。 《スタッフ、対応時間》 教員1名、専任職員4名 9:00～18:00(月～金曜日) 9:00～16:00(土曜日)	1,540	2,040	1,898

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

芸術学部・芸術研究科

	組織名	機能
履修支援	教学事務室 教学支援グループ	新入生ガイダンス、在学ガイダンス、履修登録・履修中止、成績通知書配付、成績確認、履修相談、転学科・転コース相談、休学・退学・復学・再入学相談等を行なっている。
生活支援	教学事務室 教学支援グループ	アルバイト募集の掲示と希望者への案内を行なっている。
経済支援	教学事務室 教学支援グループ	奨学金情報の掲示、採用説明会の実施、申込書類の取りまとめ、採否連絡、振込、返還等の各種手続きを行なっている。
留学生支援	留学センター	生活指導、学費納入、ビザ発給、各種伝達事項管理などの支援を行なっている。
障がいを持つ学生の支援	教学事務室教学支援グループ・ 保健センター	障がいの種類により、学生相談窓口(教学事務室教学支援グループ)、保健センター、学生相談室と所属学科の教職員が連携し、支援体制をとっている。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

### 通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

	組織名	機能および具体的な支援体制
社会人入学生の支援	通信教育部 学務グループ	夏期スクーリング、冬期スクーリング期間中に、託児ルームを開設し1歳以上～未就学児を持つ学生の履修をサポートしている。利用者には一部経費負担も求めるが、運営に掛かる経費の90%以上は大学で負担し、便宜を図っている。
転籍学生への支援 (本学通学部から通信教育部 への異動希望者)	通信教育部 学務グループ	通学部から通信教育部への転籍を希望する学生の窓口となる事務職員をそれぞれに置き、希望学生やその保護者と個別対応。
障がいを持つ学生の支援	通信教育部 学務グループ	聴覚障がい者のみへの対応として、コース専門教育科目スクーリング受講時に、介助者(スクーリングアシスタント)をアテンドさせる(内容は講義ノートのまとめ補助。学生本人からの要望を基に、コース研究室が判断する)。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成25年度）※一部平成24年度実績数有

### 芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成25年度 採用人数	要件	申込方法
日本学生支援機構奨学金 第一種（自宅）	学外	貸与	50,177 （月額）	113 （平成24年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・5万4千円から選択。 学力基準 1年生 (1) 高等学校最終2か年又は専修学校高 等課程最終2か年の成績が3.5以上。 (2) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記(1)に 準ずると在学学校長から認められる者。 2年生以上 大学における学業成績が本人の属する学部（科）の上位1/3 以内の者。  家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第一種（自宅外）	学外	貸与	61,691 （月額）	162 （平成25年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・6万4千円から選択。 学力基準 1年生 (1) 高等学校最終2か年又は専修学校高 等課程最終2か年の成績が3.5以上。 (2) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記(1)に 準ずると在学学校長から認められる者。 2年生以上 大学における学業成績が本人の属する学部（科）の上位1/3 以内の者。  家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第二種	学外	貸与	82,543 （月額）	1109 （平成25年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・5万・8万・10万・12万円から選択。 学力基準 (1) 出身学校又は大学における学業成績 が平均水準以上と認められる者。 (2) 特定の分野において特に優れた資質 能力を有すると認められる者。 (3) 大学における学修に意欲があり、学業 を確実に修了できる見込みがあると認 められる者。 (4) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記に準 ずると認められる者。  家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成25年度）※一部平成24年度実績数有

芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成25年度 採用人数	要件	申込方法
日本学生支援機構奨学金 第一種	学外	貸与	80,778 (月額)	36 (平成25年9 月現在総貸 与人数)	院生対象 修士5万・8万8千円、博士8万・12万2千円から選択。 学力基準 大学等並びに大学院における成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を 要する職業等に必要な高度の能力を備えて活動することができる者と認められる者。  家計基準 本人の収入金額合計（配偶者がいる場合は、配偶者の収入を含む。ただし、定職取 入がある場合が対象。）が収入基準額（修士：374万円、博士：425万円）以下が選 考の対象となる。 定職収入が給与所得以外の場合は、収入金額から必要経費を控除した額となる。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第二種	学外	貸与	92,500 (月額)	8 (平成25年9 月現在総貸 与人数)	院生対象 5万・8万・10万・13万・15万円から選択。 学力基準 (ア) 大学等並びに大学院における成績が 優れ、将来、研究能力又は高度の専 門性を要する職業等に必要な高度の 能力を備えて活動する ことができる者と認められる者。 (イ) 大学院における学修に意欲があり、学 業を確実に修了できる見込みがあると 認められる者。  家計基準 本人の収入金額合計（配偶者がいる場合は、配偶者の収入を含む。ただし、定職取 入がある場合が対象。）が収入基準額（修士：536万円、博士：718万円）以下が選 考の対象となる。 定職収入が給与所得以外の場合は、収入金額から必要経費を控除した額となる。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
学資奨学金	学内	貸与	270,000 (貸与額平均)	4	学部1～4年生対象 4年間の就学期間中に年間学費の半額を上限に貸与する。 学力基準 2年生以上の場合、標準的な単位数を修得していること。留年不可。（2年生：3 0単位以上、3年生：62単位、4年生：90単位以上）  家計基準 家計を支える保護者の所得金額を基に、日本学生支援機構奨学金の算定方法を準用 する。	6月上旬願書配布、6月中旬提出締切。 教学事務室窓口で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。
学費減免	学内	給付	175,000 (給付額平均)	80 (平成25年 度実績)	学部2～4年生対象 経済的困難度の高い上位80名を減免対象とする。 80名のうち、60名に対し1人20万円、20名に対し10万円給付する。 学力基準 標準的な単位数を修得していること。留年不可。（2年生：30単位以上、3年 生：62単位、4年生：90単位以上）  家計基準 総務省家計調査・年間収入五分位階級第Ⅰ階級以下であること。※父母年収（所 得証明書における給与収入額）が433万円以下（自営業等は所得金額80万円以下） であること。共働きの場合は、父母二人の収入を合算。	9月中旬願書配布、10月初旬提出締切。教学事務室窓口で配布される願書を受取 り、記入後必要書類とともに提出。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成25年度）※一部平成24年度実績数有

### 芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成25年度 採用人数	要件	申込方法
若山会奨学金	学内	貸与		0	0 学部4年生対象 年間学費の半額を上限に貸与する。 学力基準 当該年度に卒業が見込める単位数であること。  家計基準 家計を支える保護者の所得金額を基に、日本学生支援機構奨学金の算定方法を準用する。	教学事務室窓口で配布される申込用紙を受取り、記入後必要書類とともに提出。 (随時)
加藤定育英会奨学金	学外	給付	30,000 (月額)	2	2 学部3・4年生、院生対象  学業優秀、品行方正、就学に耐えうる健康体でありながら、経済的事由によって就学に支障をきたしている者。	7月末提出締切。 要件に該当する候補者を大学にて選出・選考し、推薦する。
佐藤国際文化育英財団奨学金	学外	給付	30,000 (月額)	3	3 学部、院共通対象  以下の条件を満たしている者。 (1) 日本画及び油画（版画を含む）を専攻中の者。 (2) 学業、人物ともに優秀であり、かつ健康である者。 (3) 学費の支弁が困難と認められる者。 (4) 例会など財団が指定する行事に毎回出席できる者。 (5) 年齢は原則として35歳未満の者。	4月末提出締切。 日本画・洋画コースより要件に該当する候補者を大学にて選出・選考し、推薦する。
香雪美術館奨学金	学外	給付	50,000 (月額)	1	1 学部1～4年生対象  兵庫県内の高校の卒業生（あるいは両親が同県内に在住する者）で、財団法人香雪美術館が指定する関西の大学、短期大学の美術、美術・芸術理論・美術史・文化財保存などを専修する学業優秀者。	4月初旬願書配布、4月末提出締切。 教学事務室窓口で願書を受取り、必要書類とともに提出。
あしなが育英会奨学金	学外	貸与	40,000 (月額)	1	1 学部1～4年生対象  保護者（父または母）が、病気や災害（道路における交通事故を除く）もしくは自死（自殺）などで死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の子供。 (注) 保護者が死亡したり後遺障害者になったときの子供の年齢が20歳以上の場合には奨学生の対象外。	5月末提出締切。教学事務室窓口で願書を受取り、必要書類とともに提出。
交通遺児育英会奨学金	学外	貸与	60,000 (月額)	1	1 学部、院共通対象  大学（短期退学も含む）および大学院に在籍している29才までの学生で、保護者等が道路上の交通事故で死亡したり、著しい後遺障害のために働けなくなった家庭の子女。	5月初旬願書配付、6月初旬応募締切。※学部のみ二次募集有。（11月上旬締切） 教学事務室窓口で願書配付。必要書類を準備後、直接本人が育英会へ提出。
中信育英会奨学金	学外	給付	20,000 (月額)	1	1 2回生対象 学業優秀、品行方正でありながら経済的事由により修学が困難な者。 留學生は除く。	3月末提出締切。教学事務室窓口で願書を受取り、記入後必要書類とともに窓口へ提出。応募者の中から推薦者1名を大学にて選考する。
滋賀県保育士修学資金	学外	貸与	25,000 (月額) 入学準備金 200,000 就職準備金 200,000	1	1 原則として滋賀県に住民登録している者であって、保育士を養成する学校その他の施設に在学し、卒業後、滋賀県内の施設等において、保育士として従事する意思を有する者。	5月初旬公募、こども芸術学科研究室で願書配付、受付、選考。
川西市奨学資金	学外	貸与	30,000 (月額)	1	1 優秀な学生であって、かつ家庭の経済的状況から真に本就学資金の貸付が必要と認められる者。	6/3～14 川西市教育委員会事務局学校教育室学務課必着。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成25年度）※一部平成24年度実績数有

### 芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成25年度 採用人数	要件	申込方法
三菱商事復興支援財団	学外	給付	100,000 (月額)	1	2011年3月11日に発生した東日本大震災によって経済状況が急変（悪化）し、学業継続が困難な状況にある学生。 家計基準：本震災の影響により家計が急変する事由が生じ、経済的困窮度が高いことを在籍大学が認める学生。 学力基準：学習意欲の高い学生。	大学の推薦のもと、願書（兼推薦書）に罹災証明書添付して、教学事務室窓口へ提出。
特待生	学内	給付	463,500 (年間授業料半額)	6	院生（修士）対象 年間授業料の半額を免除。 1年生 学業・人物ともに優秀な学生。 2年生 学業・人物ともに優秀な学生であり、入学時に特待生に選抜されていない者。	1年生 出願者のうち志望者のみ対象。前日程入学試験の結果を参考にして選考する。 2年生 5月頃に前年度の成績等を参考に総合的に判断し選考する。（手続不要）
特待生	学内	給付	927,000 (年間授業料全額)	3	院生（博士）対象 年間授業料を全学免除。 学業・人物ともに優秀な学生。	1年生 入学試験の結果を参考にして選考する。（手続不要） 2年生以上 5月頃に前年度の成績等を参考に総合的に判断し選考する。（手続不要）
外国人留学生入学金免除	学内	給付	200,000 (入学金全額)	27	大学院新入生対象 入学金を全額減免（※平成24年度入学生より制度改正）	申込不要
外国人留学生入学金免除	学内	給付	200,000 (入学金全額)	42	学部新入生対象 入学金を全額減免（※平成24年度入学生より制度改正）	申込不要
外国人留学生奨学金	学内	給付	1,227,000 (2013年度学費全額)	1	私費留学・大学院生対象 2013年度学費（授業料・施設費）全額免除 以下の条件を満たしている者 (1) 本学大学院の正規課程に在籍する 外国人留学生であること (2) 2012年度（1年間）の成績を本学で取得していること （新入生、退学後1年以上経過した再入学生、休学後1年以上経過した復学生は除く） (3) 学業、人物ともに優れていること （文部科学省学習奨励費算定方法で成績係数2.3以上） (4) 文部科学省の国費、学習奨励費など、その他の奨学金を受給していないこと (5) 国民健康保険に加入し、保険料を滞納していないこと	4月応募書類提出。留学センターで配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。
外国人留学生奨学金	学内	給付	55,000 (月額)	13	私費留学・学部生対象 以下の条件を満たしている者 (1) 本学芸術学部の正規課程に在籍する 外国人留学生であること (2) 2012年度（1年間）の成績を本学で取得していること （新入生、退学後1年以上経過した再入学生、休学後1年以上経過した復学生は除く） (3) 学業、人物ともに優れていること （文部科学省学習奨励費算定方法で成績評価係数2.3以上） (4) 文部科学省の国費、学習奨励費など、その他の奨学金を受給していないこと (5) 国民健康保険に加入し、保険料を滞納していないこと	4月応募書類提出。留学センターで配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。



## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成24年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

奨学金の名称	学内・学外	給付・貸与	1人あたりの月額平均支給額	平成24年度採用人数	要件	申込方法
学習支援奨学金（大学院）	学内	給付	18,750	0	学習が通算3年目以上となる場合に授業料を3割減免。	個別の申込不要。 授業料請求時に大学にて一括処理（授業料請求から奨学金分を減免する）。
学習支援奨学金（学部：芸術学科）	学内	給付	5,775	189	同一コースでの学習が通算5年目以上となる場合に授業料を3割減免。 ただし、下記の年限退学時再入学奨学金受給者、卒業後再度入学奨学金受給者、併修生奨学金受給者への重複支給は行わない。	
学習支援奨学金（学部：日本画・洋画）	学内	給付	6,925	222		
学習支援奨学金（学部：陶芸・染織）	学内	給付	7,500	126		
学習支援奨学金（学部：写真・アニメーション・デザイン科）	学内	給付	8,075	329		
年限退学時再入学奨学金（大学院）	学内	給付	18,750	3	年限退学時再入学制度（在籍年限終了の翌年度に同一分野に入学）による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
年限退学時再入学奨学金（学部：芸術学科）	学内	給付	5,775	60	年限退学時再入学制度（在籍年限終了の翌年度に同一コースに入学）による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
年限退学時再入学奨学金（学部：日本画・洋画）	学内	給付	6,925	51		
年限退学時再入学奨学金（学部：陶芸・染織）	学内	給付	7,500	22		
年限退学時再入学奨学金（学部：写真・アニメーション・デザイン科）	学内	給付	8,075	85		
内部進学奨学金（大学院）	学内	給付	18,750	103	内部進学制度（通信教育部卒業、博物館学芸員資格課程修了後入学）、大学院進学準備制度による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
卒業後再度入学奨学金（学部：芸術学科）	学内	給付	5,775	19	卒業後再度入学制度（コース卒業後、同一コースまたは別コースに入学）による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
卒業後再度入学奨学金（学部：日本画・洋画）	学内	給付	6,925	2		
卒業後再度入学奨学金（学部：陶芸・染織）	学内	給付	7,500	2		
卒業後再度入学奨学金（学部：写真・アニメーション・デザイン科）	学内	給付	8,075	11		
併修生奨学金（学部：洋画）	学内	給付	3,083	5	提携する交流校（専門学校）との併修生に在籍期間を通じて授業料を減免。	
併修生奨学金（学部：情報デザイン）	学内	給付	3,583	42		

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成24年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

日本学生支援機構奨学金 （学部：第一種・第二種併用）	学外	第一種：貸与 （無利子） 第二種：貸与 （有利子）	17,333	2	夏期スクーリング受講時に奨学金 貸与（年間1回）。	希望者は大学へ申込書一式提出。 学内審査を経て、大学より日本学生支援機構へ 申請。
日本学生支援機構奨学金 （学部：第一種）	学外	貸与 （無利子）	7,333	3	夏期スクーリング受講時に奨学金 貸与（年間1回）。	
日本学生支援機構奨学金 （学部：第二種）	学外	貸与 （有利子）	10,000	1	冬期スクーリング受講時に奨学金 貸与（年間1回）。	
日本学生支援機構奨学金 （大学院：第一種・第二種併用）	学外	第一種：貸与 （無利子） 第二種：貸与 （有利子）	168,000	0		
日本学生支援機構奨学金 （大学院：第一種）	学外	貸与 （無利子）	88,000	2		
日本学生支援機構奨学金 （大学院：第二種）	学外	貸与 （有利子）	80,000	1		

課外活動への支援（平成24年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

活動支援の名称	学内・学外	給付・貸与	1件あたり の金額	平成24年度 採用人数	要件	申込方法
学生創作研究助成金制度 ※1	学内	給付	102,000 122,000 200,000	3	—	4～5月に大学へ申込、企画内容の事前審査を経て企画実施後に報告書を提出。2月に最終的な助成額決定。
学習会活動支援	—	—	—	20	学生が自主的に開催する学習会に対して、一定の基準を満たす場合に、学生からの申請により教員を派遣する場合がある。その場合の派遣にかかる経費を大学で負担する。	実施一ヶ月前までに大学へ申込。

※1…学生創作研究助成金制度

通信教育部の学生は47都道府県に在住しているため、本制度により地域社会の中で芸術文化の活性化を目指す創作・研究活動を行う学生に対し、その趣旨、具体的企画内容を審査の上、助成を行なっている。

1件あたり上限20万円とし、助成額は申請額および内容を審査のうえ決定する。

# 2012年度産学連携一覧

No	受託研究名	期間	委託機関	概要	学生関与(人数)	単位認定
1	藤井大丸ウィンドウディスプレイ (2012夏)	2012.03-07	髙ヶ崎・ディー	京都の老舗デパート・藤井大丸のウィンドウディスプレイのためのデザインを学生が制作。水着のプロモーションのためのデザインを展開。	有(17名)	有
2	「神様の結うとおり」35柱設置事業模型制作	2012.04-07	株式会社ウエイズ	淡路島一宮イザナギ神宮と1キロ離れた郡家商店街と結びつけ、活性化を促す。イザナギとイザナミが生んだ35柱の神々をデザインし、それらをモニュメント化し、設置する。モニュメントデザイン、フィールドワーク、コンセプト、2分の一スケール模型制作。	有(2名)	無
3	ワールド・アートルーム (2012前・後期・2013前期)	2012.04-07	株式会社ワールド	ワールドが全国のイオンモールに展開する複合ブランドショップ「フラクサス」のためのウィンドウディスプレイのデザインと子供向けWSイベントの提案と実施。「わくわくどきどき」というキーワードを提示され、それに基づきイメージを展開。	有(11名)	有
		2012.05-12		「フラクサス」クリスマスウィンドウディスプレイ展開。	有(24名)	有
		2012.11-2013.07		「フラクサス」夏ウィンドウディスプレイ展開(母の日含む)。	有(18名)	有
4	しまね新商品開発プロジェクト	2012.05-08	公益財団法人しまね産業振興財団	2010年より島根県、松江市にて地元の素材を用いて新商品開発を行う。松江では伝統産業の見学、そして温泉津訪問。今回は島根大学の学生とコラボレーションし、意見交換しながら新しいアイデア作りに努めた。演習内容は昨年度に比べ、より専門的に行うため主な活動場所を現地作業場とし、最終日にはしまね産業振興財団の方々の前でプレゼンテーションを行った。	有(13名)	有
5	盲導犬顕彰慰霊碑再生プロジェクト	2012.05-11	公益財団法人関西盲導犬協会	クイールの会様と、関西盲導犬協会様からの依頼により、亀岡にある同協会の敷地に設置されている盲導犬顕彰慰霊碑周辺の環境整備を実施。大野木副学長が、空間デザイナーとして、お骨の収容やお参りのしやすさなども考慮した、慰霊によりふさわしい場所として、再生。	無	無
6	粟田神社大燈籠制作プロジェクト2012	2012.05-11	粟田大燈籠実行委員会	2008年より継続されたプロジェクト。京都東山にある粟田神社最大の祭礼行事「世渡り神事」を180年ぶりに復活させた。神社や周辺地域の歴史・伝承等を調査、京都の歴史・芸術・文化・風土等を掘り下げ、「大燈籠」のデザインを提案・制作に取り組んだ。神事では「大燈籠」とともに巡行し、モノ創りにおける「モノガタリ」が如何に必要であるかを体験、より一歩進んだグループワークを体験した。今回は亀岡祭にも参加した。	有(22名)	有
7	HAPii+2012 ーホスピタル・アート・プロジェクトー	2012.05-11	NPO法人アーツプロジェクト 京都府立医科大学附属病院	京都府立医科大学附属病院内の環境改善プロジェクト。今回は小児集中治療室(PICU)内とその廊下を施工。プレスコ画技法や大規模なカットングシートを導入し、より作品の完成度を高めた。24時間稼働の入院・治療空間への施工という全国でも稀な実践例をさらに重ねることができた。入院児童へのワークショップも継続。また、4年間の活動を総括する報告書を作成し、全国的な知名度を高めた。	有(18名)	有
8	Kyoohoo2012(前・後期)	2012.05-2013.03	公益財団法人京都産業21	京都産業21の伝統産業企業グループ「kyoohoo」職人技術を生かした生活雑貨デザインプロジェクト。年2回ニューヨークで開催される「国際ギフトフェア」に製品を出展。既に本学学生デザインの製品が欧米市場及び国内市場で販売されている。2011年度前期は「kyoohoo」ブランドの共通モチーフのデザイン及び生活雑貨の商品デザイン等に取り組み、採用分は8月のニューヨーク国際ギフトフェアに出展した。	有(前期:19名・後期15名)	有
9	田の字地区活性化プロジェクト	2012.05-2013.03	田の字地区活性化実行委員会	京都市中心部・通称田の字地区の活性化とアピールを目的とする活動。ワークショップイベントに加え、地域フィールドワークとその成果物としてのマップ・コラム制作を実施。制作したマップは京都市内を中心に1万部以上を配布。京都府助成金の獲得や、社会福祉協議会との連携にも発展した。2013年度も継続。	有(9名)	有
10	アバカ・フェアトレード商品開発プロジェクト	2012.05-2013.05	NPO法人フェアプラス	アバカの繊維(マニラ麻)を使い、日本で市場性のあるフェアトレード商品のデザイン開発を行うことを目的としたプロジェクト。オプションとしてアバカの生産地・フィリピンでのスタディツアーを11月に実施。年間を通じてデザイン力を高めるだけでなく、作業所見学やスタディツアーによってフェアトレードの必要性や、デザイン開発に必要な考え方についても学んだ。最終的に現地生産者(フィリピン)の協力を得てバックとクッションの商品化。関西国際空港(KIX)、ロフトなどで2013年5月以降販売の予定。	有(7名、うち5名が2013年度継続)	有
11	学生によるワンルームマンションのリフォームの提案	2012.05-2013.03	株式会社社長栄	2011年度からスタートした、学生による賃貸物件のリフォーム提案。前後期の2期に分かれて提案を行う。優秀なものは、実際に物件化し、顧客の評判も良い。2013年度も継続が決定している。	有(前期8名、後期12名)	無
12	シライ電子工業検査機デザイン①	2012.05-08	シライ電子工業株式会社	半導体基盤検査機「VISPER710SV」「VISPER710ST」「VISPER730ST」を対象機器としたデザイン提案	有(卒業生1名)	無
13	シライ電子工業検査機デザイン②	2012.11-2012.12	シライ電子工業株式会社	半導体基盤検査機「VISPER310」「VISPER330」「VISPER350」を対象機器としたカラーリング提案	有(卒業生1名)	無
14	手しごと職人のまち東山再発見プロジェクト2012	2012.07-2013.03	京都市東山区役所(助成事業)	まか通プロジェクトで取り組まれた職人ヒアリング調査が認められ、東山区の助成金事業として採択。11月に職人工房を巡る弾丸ツアー、3月には職人サミットを開催し、一般の方々へ職人のリアルな現状を見聞する機会を設けた。また、2012年度の調査内容をまとめた「職人見聞録」を作成、配付した。	有(7名)	無
15	虎屋ギャラリー企画プロジェクト	2012.07-12	株式会社虎屋	5世紀にわたり菓子屋を営んできた虎屋が所有する「虎屋京都ギャラリー」にて実施する展覧会の企画・運営を行うプロジェクト。伝統産業の現状について学び、そこから生まれた問題意識から、伝統的な手仕事に必要不可欠な道具と材料の奥深さについて発信することを目的とした。職人の工房を見学し、展示内容の企画や展示品の選定、DM・パンフレット・小冊子を作成した。虎屋に受け継がれる手仕事から学び、虎屋が所有する井籠(せいろ)を軸に、伝統産業を支える職人の技術やその工程に焦点を当てた展覧会を実施した。	有(6名)	有
16	純チタン削りだしiPhoneケースデザイン制作	2012.09-2013.03	株式会社中村製作所	三重県が仲介者となり、同県内の美大との連携を希望する企業とのマッチングを行う産業振興事業の一環で実施。四日市市にある金属加工メーカーとの共同によるデザイン開発事業。純チタンの加工を得意とする同社の技術を生かした自社ブランドのプロダクトを、新たに展開していくため、その最初のアイテムとしてiPhone5用のカバーのデザインを、プロダクトデザイン学科研究室と学生が制作。	有(5名)	無
17	よしもと×京都造形新商品開発プロジェクト	2012.10-2013.05	京都製作センター株式会社	京都府とよしもとと興業との連携により、「売れる京もの伝統工芸品」の制作として、扇子のデザインに取り組む。メーカ及び販売協力として大西常商店様に協力を依頼。よしもとの47市場、東急ハンズ、大西常商店等で販売。	有(16名)	有
18	林業・木材産業観光導入調査フィールドワークと地域資源マッピング制作	2012.09-10	株式会社JTB西日本奈良支店	奈良県・吉野における林業・木材産業観光導入調査におけるフィールドワークと地域資源のマッピング作成。	有(3名)	無
19	伏見+Artプロジェクト	2012.11-2013.03	京都市(産業観光局商業振興課)	京都市産業観光局および伏見・中書島商店街の若手有志からの依頼に基づき、同地域のアート・デザインによる活性化イベントの企画・実施を担当。学外NPO等とも連携し、空き店舗での制作や神社での展示、銭湯での映画上映、商店街で販売されている商品を用いた展覧会や親子向けワークショップ、イベントなどを多彩に展開。現役生だけでなく卒業生を多数巻きこみ事業を展開した。メディア露出多数。	有(22名)	無
20	懐紙の図柄デザインプロジェクト	2012.11-2013.01	株式会社辻商店	一般的な懐紙の定番柄にとらわれず、自由な発想で「楽しめる懐紙の図柄」をデザインしたプロジェクト。数回にわたりデザインを持ち寄ってプレゼンテーション発表を行い、クライアントや担当教員よりフィードバックが行われた。現場の声や社長の経験をもとに改良を行い、最終的には22点のデザインが商品化した。汎用性のあるデザインに加え、独特な色使いのものや、昔話の登場人物などを使ったデザインが選ばれた。	有(7名)	無
21	汎路店壁画デザイン及び制作	2012.12-2013.01	汎洛	下京区高辻通御幸町にあるパン屋さん「汎洛」の屋外壁画の制作。パン屋さんの活性化を図るための依頼。12月にデザイン案を提出。12/20の1日で壁画を完成させた。(関本先生・在学生・卒業生*業者として依頼の計3名で実施)	有(学生1名・卒業生*業者1名 計2名)	無
22	バス停留所周辺案内ポケット冊子作成	2012.12-2013.03	京都市左京区役所	左京区総合庁舎への来庁手段となるバス路線(56号線)の各停留所周辺の観光資源を掘り起こし、紹介する案内マップの作成。アート目録のフィールドワークで一般的な観光案内との区別を図る。フィールドワーク、マップデザインデータ等作成。	有(3名)	無
23	今熊野猿楽復活に向けての基礎調査研究および復活お披露目公演実施	2012.01-2013.10	新熊野神社	今熊野猿楽復活に向けての基礎調査研究および復活お披露目公演実施。2012年度は、調査結果に基づいて、境内に石板レリーフを設置するため、そのデザインを行った。その後、調査活動を引き続き行い、2013年度にかけては、今熊野猿楽復活に向けての詳細調査(主に映像)及び演舞、装束、音楽、せりふ等の方向付けとその実証実験とお披露目を予定している。	有(デザイン/5名、地方調査/卒業生1名・在校生2名)	無
24	二条城ライトアップ	2013.02-2013.04	公益社団法人京都市観光協会	二条城ライトアップ事業を京都市(京都市観光協会)と連携し取り組んで今回で10回目となりました(※ライトアップ自体は平成14年より開催)。世界遺産に登録されている二条城を舞台にライトアップ期間中、城内を趣のある雰囲気演出する竹材による照明器具の制作・設置を本学学生25名(うち3名が京都デザイン専門学校、1名が京都文化日本語学校学生)が担当教員の指導、職員2名の下、竹藪での竹の切り出しから運搬、デザイン、製作、設置、そして搬出までの全ての作業、また期間中は同学生がシフトを組み、城内来場者の対応なども執り行いました。2013年度は新しい試みとして二条城、観光協会に向けてプレゼンテーションを行い、テーマを提示しそれに沿った作品づくりを行いました。また最終週には和太鼓による特別公演など積極的に大学宣伝など広報活動も行った。	有(25名)	有
25	松江武者行列	2013.02-04	松江武者行列実行委員会	島根県松江市からの依頼で2005年より参加、芸術演出のプロデュースを行う。今年度は本学学生の参加を提案、積極的にイベントの関わりを強調した年であった。本番の4月6日(土)は生憎の雨となったが、屋内で行われる披露、演舞を市民に観ていただき終了した。学生参加の主な活動として、行列ポスター制作、現地ワークショップを開催、和太鼓 恵 による前日告知イベント、本番公演など。	有(情報デザイン学科2回生2名、和太鼓恵5名)	無
26	松江武者行列 2013ワークショップ	2013.3		同武者行列の事前広報イベントとしてJR松山駅前にてイベントを開催。島根大学学生ともコラボレーションし、ぬりえコンテスト、キーホルダー作成などを実施。	有(2名)	無
27	退蔵院襖絵制作	2011.3-2013.9	大本山妙心寺退蔵院	退蔵院方丈内の襖絵制作にあたっての、絵師の手配及び制作指導。本学卒業生が、退蔵院との業務委託を受ける形で、襖絵を作成。2012年度は2年目の活動であったが、マスコミ関係にも多数取り上げられ、制作も順調。当初は、2013年度の秋に完成予定であったが、継続的に制作の予定となった。	有(卒業生1名)	無
28	シリコンゴムを使った生活雑貨開発	2011.10-2012.12	共和ゴム株式会社	工業用ゴム製品の製造を行い、主にBtoBによる事業を展開する共和ゴム株式会社より依頼を受け、シリコンゴム素材を用いた雑貨商品の開発。	有(14名)	有

# 2012年度産学連携一覧

No	受託研究名	期間	委託機関	概要	学生関与(人数)	単位認定
29	AKB美術部	2012.03-07	株式会社AKS	本学の全面的なディレクションにより、AKB48グループに所属するアート好きのメンバーによる美術展を、Arts Chiyoda3331にて展開。ディレクターとして、藤村克弘先生と、中山和也先生、卒業生(瀬戸陽子氏)が担当した他、メンバーへの美術創作レッスンを外苑キャンパスにて実施。また、「2012AKB総選挙」のための舞台美術セットを学生が制作。これらは、美術雑誌「美術手帖」、テレビ東京制作・番組「週刊AKB」との共同で約4ヶ月に亘り記事、番組運動で企画を展開。	無	無
30	社会芸術ゼミ (関西国際空港グッズ開発)	2012.05-2013.02	株式会社ソニー・ミュージックレコーズ	秋元先生に見出されたゼミ生初の仕事をセンターがサポート。AKB48メンバー渡辺麻友のシングルCD発売に同梱される特典DVD映像を、ゼミ生が脚本、監督、美術・衣装制作、撮影などを担当。	有(8名)	有
31	三重県シマサルナシブランディング	2012.11.1~ 2013.2.28	三重県農業研究所 南紀果樹研究室	三重県農業研究所 南紀果樹研究室が栽培し、商品化の段階を迎えた「シマサルナシ」のブランドイメージ戦略に関わるデザイン全般を受託。	有(5名)	無
32	京都府警サイバー犯罪啓発スポットムービー	2012.6.22~ 2013.3.28	京都府警察本部 サイバー犯罪対策課 情報セキュリティ対策係	京都府民をサイバー犯罪から守るための広報啓発事業として、テレビ放送向けの啓発スポットムービー(15~20秒)を制作。	有(8名)	無
33	京都市交通局 駅ナカアート	2012.11.7~ 2013.3.22	京都市交通局	京都市内の大学生が、地下鉄駅の壁面を共通のテーマに沿った制作物で演出し、お客様を楽しませ、地下鉄のイメージアップと増客につなげることを目的としたプロジェクト。	有(4名)	無
34	本学プロダクトデザイン学科PV制作	2012.12~2013.3	プロダクトデザイン学科	本学プロダクトデザイン学科のPVを制作。オープンキャンパスの際などに使用し、高校生にプロダクトデザイン学科の魅力伝えることを目的として企画・撮影・編集を行った。	有(3名)	無
35	近代産業遺産アート再生プロジェクトまか通VI	2012.04-2013.03	東山区 六原自治連合会 京都市 公益財団法人大学コンソーシアム京都	京都市東山区六原地域に点在する近代産業遺産である建造物、風景、文化、伝承、伝説などを中心にフィールド調査を重ね、事象をアート目線で捉えなおし、東山区にてイベントやワークショップを実施。今年度はテーマをとおこしをデザインするとし、地域に埋もれた伝承や文化を復活させるイベントを企画、運営した。3月には活動成果をまとめた100ページ以上の冊子を発行。観光資源開発と地域振興と地域コミュニティのあり方に関わり方を学んだ。学まちコラボ事業奨励団体として認定された。	有(38名) 日本語学校1名 通信1名含む	有
36	ギャルリエ・オープンプロジェクト	2012.04-2013.04	ギャルリエ・オープン	本学ギャラリースペース「ギャルリエ・オープン」にて開催される展覧会に関連したイベントや空間演出を行った。最後には独自企画による展覧会を開催し、年度末のギャラリースペースを彩った。	有(10名)	有
37	アートフェスタin大山崎町2012	2012.05-09	離宮八幡宮 大山崎町役場	6年目となるこのプロジェクトでは「大山崎町のことをもっと好きになる」をコンセプトに、離宮八幡宮でのライトアップ&ライブ、展示、こども向けワークショップを実施。今年度は、地元団体によるイベントも加わり、1000名近い動員を果たす	有(23名)	有
38	学生企画・Interview! ~芸術力とは何かを問う、本の出版プロジェクト~	2012.05-2013.03	プロジェクトセンター	多くの人が自らの仕事に対し誇りを持ち芸術的な完成を生かしながら働いている。どんな人がどんな思いで働いているのか、そこに込められた思いと芸術が果たす役割を解きほぐし、社会に必要とされる芸術力は何かを見出し社会に伝えるため、インタビューを行い原稿を作成、印刷物として配付した。また、インタビューイベントを行い、社会で活躍する人同士の対談などで、リアルに芸術力を伝える取組みも行った。	有(22名) 大学院2名含む	有
39	プロジェクト・オペレーション2012	2012.05-2013.03	プロジェクトセンター	複数のプロジェクトを取材し、今まで以上に学内外にリアルワークプロジェクトの認知度を高めていくことを目的とした。ブログ、フェイスブック、ツイッターを立ち上げ、プロジェクトの1週間毎の動きや、制作・フィールドワーク・イベント・プレゼン等の取材情報を発信した。プロジェクト未経験学生をターゲットにプロジェクトを伝える冊子「プロジェクトカーニバル」を制作、配布した。	有(6名)	有
40	温泉津まちづくりプロジェクト2012	2012.05-08	大田市役所温泉津まちづくりセンター	神楽の公演のプロデュースや、現地フィールドワークを通じてまちづくりに参加をし、地域の活性化に取り組んだ。今年度は温泉津芸大と称し、現地の方との意見交換の場や婦人会の方に郷土料理の作り方を教えて頂き交流を持つ場を設けたり、温泉津の地域振興に対する提案プレゼンを行うなど、直接的に働きかける企画も設けた。また、最終的には、温泉津での滞在・温泉津芸大の経験を活かし、温泉津の魅力伝えるポスター企画・撮影・制作した。	有(7名)	有
41	鳥取砂像制作プロジェクト	2012.05-08	鳥取市	8/3~7の日程で現地滞在。鳥取市気高町の一大イベント「貝がら祭り」に合わせて、地元中学生等が協働での砂像制作をおし互いの人間力を養うとともに、地元のアーティストとも交流を深めた。浜村温泉街活性化及び「砂像のまち鳥取市」を全国発信。完成した砂像は8月末日までライトアップされた。	有(16名)	有
42	ココヨ×ココヨファニチャー×京都造形芸術大学	2012.10-2013.06	ココヨ株式会社 ココヨファニチャー株式会社	企業の指導の下、こども向けの新商品デザインの提案、創出を行う。テーマは「PLAY-まなびのためのあそび」。こどもの教育環境を、こども芸術大学を活用しリサーチ、ディスカッション。最終的に洗練した9つのプランを大阪本社にてプレゼンテーションを行った。	有(23名)	有
43	造形大イルミネーション	2012.10-12	本学自主企画	毎年恒例となっている、本学人間館の柱を利用してイルミネーションと、これに続くピロティ一部にLEDライトを使用した、クリスマスイルミネーション。「Parade de circus」をテーマに、木枠でサーカス小屋をつくり、発泡で楽器を奏でる動物たちを作成するなど、通りを行く人や学内を出入りする人々の心を明るく楽しませた。ターナーから取材を受け、WEB上で海外向けに紹介された。	有(18名) 日本語学校6名	有
44	次世代ロボットデザインプロジェクト	2012.10-2013.03	国立大学法人豊橋技術科学大	最終年度の2012年で6年目となる文科省研究助成による豊橋技術科学大学とのコラボレーション。前半の3年間は共同研究体制で推進し、後半の3年間は技科大のテーマに本学学生チームが協力参加するかたちであった。本学の役割は一貫して次世代ロボットのデザインと制作にあった。毎年3月、豊橋で開催される成果発表展とシンポジウムに出展参加。2011、2012年の瓜生山祭でもその成果を披露した。	有(11名)	無
45	東山花灯路プロジェクト	2012.12-2013.04	京都・花灯路推進協議会	毎年3月に開催される京都の春イベント東山花灯路の「大学のまち伝統の灯り展」に3点の作品を出展。デザイン企画、制作、搬出入、スケジューリング全般の管理を行う。同様に展出する大阪成蹊大、京都市立芸術大、京都嵯峨芸術大、成案造形大に呼びかけをし、合同で展示期間初日に各作品のレビューを行った。(展示期間:3/8~17 展示場所:円山公園)今回は、KBS京都の新番組のセットとして借用依頼がある等、クオリティの高い作品が完成した。	有(13名)	有
46	ULTRA AWARD 2012	2012.4-2012.3	本学自主企画	本学学生・卒業生(卒業2年以内)を対象としたアート・コンペティション。応募者から5名の学生を選出。ファクトリーでの約3ヶ月間の制作期間の後、ARTZONEで展覧会、審査会を実施。一連の活動をまとめたカタログを制作した。2012年は特別審査員として秋元康氏を迎えたほか、1回生で抜擢された堀元達矢が大賞を受賞し、次回開催の問い合わせが増加。在学生、卒業生の制作意欲に刺激を与える結果となった。	有(5名)	無
47	YANOBE PROJECT 2012	2012.5-2012.10	本学自主企画	美術作家ヤノベケンジの《THE STAR ANGER (ザ・スターアングラー)》の制作プロジェクト。直径4メートルの巨大ミラーボール《THE STAR ANGER》を制作、10月に大阪・名村造船所跡地で開催した「NAMURA ART MEETING '04- '34『臨界の創造論』」へ出品された。また昨年から引き続き、《サン・チャイルド》プロジェクト参加学生がワールドツアーと、「福島現代美術ビエンナーレ」への展示にも参加。被災地でのお披露目が実現した。	有(9名)	有
48	YANOBE PROJECT 2012 BEYOND	2012.10-2013.1	日本放送協会	ヤノベケンジ×ビートたけし、驚異のコラボレーションが実現。8mの巨大彫刻作品《ANGER from the Bottom (アングラー・フロム・ザ・ボトム)》は、たけしの「古井戸」についての着想をもとに制作されたもの。学生たちのチームワークもあり、約1ヶ月半という驚くべきスピードで完成を果たした。2013年1月15日、ヤノベとたけしとの記者会見とともに東京都現代美術館でお披露目をむかえ、新聞各紙をはじめとしたさまざまなメディアで話題となった。	有(21名)	有
49	YANOBE PROJECT 2012 BEYOND	2013.2-2013.3	株式会社アートフロントギャラリー	「瀬戸内国際芸術祭2013」に出品するヤノベケンジの3作品《THE STAR ANGER》、《ANGER from the Bottom》、《小豆島縁起絵巻》(壁画)の制作、設置の受託。	有(9名)	無
50	YANOBE PROJECT 2012 BEYOND	2013.2-2013.3	ジャンボフェリー株式会社	「瀬戸内国際芸術祭2013」の会場である小豆島と神戸港を結ぶフェリーに設置された《ジャンボ・トラヤン》制作プロジェクト。フェリーの運行会社からの受託案件。	有(8名)	無
51	やなぎみわ演劇プロジェクト	2012.5-2012.3	本学自主企画	美術作家でありながら、演劇の世界に活躍の場を広げているやなぎみわによるプロジェクト。今年度はおにも、やなぎ作・演出の「1924 人間機械」の高松、世田谷公演、大阪・アートエリアB1での「鉄道芸術祭 vol.2 やなぎみわプロデュース 駅の劇場」の各プログラムや、駅のプラットフォームを模した舞台での公演、やなぎ作「パノラマ〜鉄道編〜」に参加した。舞台セットや衣装の制作から稽古の立会い、また参加学生のひとりとは、やなぎ演劇には欠かせない狂言回しの役割を担う案内員としての出演を果たし、各分野のプロフェッショナルたちと現場を共有した。	有(14名)	有
52	高橋匡太ひかりのプロジェクト	2012.5-2012.3	本学自主企画	光を使って出来事を起こしていく作家、高橋匡太率いるプロジェクト。「徳島LEDフェスティバル」や「横浜スマートイルミネーション」、「2013京都美術ビエンナーレ」など、2013年4月まで計8つのイベントを通して、作品プログラミングや「ひかり場」の設置、光を使ったワークショップの運営をおこなった。特に「TOKYO SKY TREE LIGHT ART ENTERTAINMENT」では、オープン初の東京スカイツリーでのクリスマスを彩り、また、学生主体で「徳島LEDフェスティバル」のコンペティションへの応募にも挑戦した。	有(16名)	有
53	ULTRA SANDWICH PROJECT (8期)	2012.5-2012.3	本学自主企画	彫刻家、名和晃平の作家活動の全貌を間近で目撃・体験するプロジェクト。観月橋にある名和のスタジオ「SANDWICH」を活動の拠点とし、ドローイングやワークショップ、作品制作を通して技術力・思考力を養う。今年度は、2012年9月に韓国ARARIOギャラリーにて開催された個展「Kohei Nawa-TRANS」、また同年11月に阪急うめだギャラリーにて開催された個展「Kohei Nawa-TRANS   SANDWICH」において、制作から、大型展覧会における会場構成及び設置方法、また開催直前のプロジェクトマネージメントなど、貴重な経験を果たした。その他、BEAMSとのコラボつなぎやミュージシャン「POLYSICS」のPVを学生主体で制作するなど、「SANDWICH」にて進行する多岐にわたるプロジェクトにも参加した。	有(26名)	有

## 2012年度産学連携一覧

No	受託研究名	期間	委託機関	概要	学生関与(人数)	単位認定
54	宮永愛子@国立国際	2012.5-2012.10	本学自主企画	美術作家、宮永愛子が大坂・国立国際美術館にて個展「宮永愛子 なかそらー空中空ー」(2012年10月13日～12月24日)を開催するにあたって発足したプロジェクト。本学学生とともに、以前から宮永の制作に携わっていた京都精華大学の学生も参加した。制作では、ナフタリン製の椅子を樹脂で封入した重さ500kgにもなる《なかそらーwaiting for awakeningー》と12万枚の金木犀の葉脈を繋ぎあわせた壮大な《なかそらー景色のはじまりー》という新作をおもに担当。特に《なかそらー景色のはじまりー》では、学生たちがそれぞれ、身近な場所で金木犀を探し、葉を集めるところから始めた。大型美術館での個展にあたり、制作から展示構成、搬入まで、一貫してその経過に立ち会うことができた。	有(22名)	無
55	CRITICAL DESIGN LAB.	2012.5-2012.3	本学自主企画	CRITICAL DESIGN LAB. (クリティカルデザインラボ) は、デザインを横断的に捉え、「研究」「発見」「発表」の3つのフェーズを通してウルトラデザイナー育成を目的とするプロジェクトである。今年度はクリエイティブ・ユニットgraf代表で本学の情報デザイン学科副学科長である服部滋樹とともに、「はたらく人のイス」の研究とリサーチ、設計と制作までをおこなった。なお、このプロセスのアーカイブを、電子書籍というオープンソースで公開。デザインから制作、発信までを行った。	有(8名)	有
56	BY EDIT	2012.5-2012.3	本学自主企画	BY EDIT (バイエディット) は、「EDIT IT YOURSELF 表現者のための編集」をキーワードに、今はまだ十分に機能していないように見える資源、人材などを再発見し、最大限に活用することを通して、編集的発想力を育成するプログラム。恒例の、「THE ULTRA」等、ウルトラファクトリーにまつわる印刷物の編集に加えて、今年度は、ジャンルの異なる2人の対談を2回企画、その収録をもとに「BY EDIT BOOK」を発行。また、DJみそしるとMCごはん、ツタイミカを招いたワークショップ「ULTRAP PROJECT」にて、ファクトリー作業をテーマにしたラップ&PVを制作した。	有(7名)	有
57	New School	2012.11.9実施	(株)電通	2012年11月9日に行われた電通社員研修の企画・運営の受託。	無	無

【海外提携校と単位互換の状況について】

国名	学校名	提携年	単位互換の有無
メキシコ	ラ・エスメラルダ美術学校	1993年	有
オーストリア	ウィーン美術大学	1995年	有
中国	西安文理学院	1996年	無
韓国	世宗大学校	1999年	無
韓国	桂園造形芸術大学	2000年	無
韓国	韓国国際大学校	2001年	無
韓国	培材大学校	2001年	無
スイス	チューリッヒ芸術大学	2002年	有
韓国	弘益大学校	2003年	有
スイス	ジュネーブ造形芸術大学	2004年	有
韓国	延世大学校	2007年	無
韓国	韓国芸術総合学校	2008年	有
韓国	韓国伝統文化学校	2008年	無
イギリス	グラスゴー美術学校	2009年	有
アメリカ	マサチューセッツ造形芸術大学	2011年	有
台湾	国立台北芸術大学	2011年	有
イタリア	ボゼン・ボルツァーノ自由大学	2011年	有
イギリス	ボーンマス芸術大学	2011年	有
フランス	セルジー国立高等美術学校	2012年	有
チェコ	国立芸術アカデミー映画学部	2012年	有
チェコ	ブラハ美術工芸大学	2012年	有
フランス	国立高等写真学校	2013年	有
フランス	国立高等装飾美術学校	2013年	有
韓国	啓明大学校	2013年	無
中国	天津商業大学	2013年	無
スウェーデン	スウェーデン国立美術工芸デザイン大学	2013年	有
フィンランド	サヴォニア応用科学大学クオピオ デザインアカデミー	2013年	有

**【海外派遣学生数】**

通学部	
スイス	4
イギリス	3
韓国	2
イタリア	1
フランス	1
	11

**【国籍別外国人学生数】**

通学部	
タイ	2
韓国	110
台湾	14
中国	27
ベトナム	1
シンガポール	1
インド	1
インドネシア	1
アメリカ	1
	158

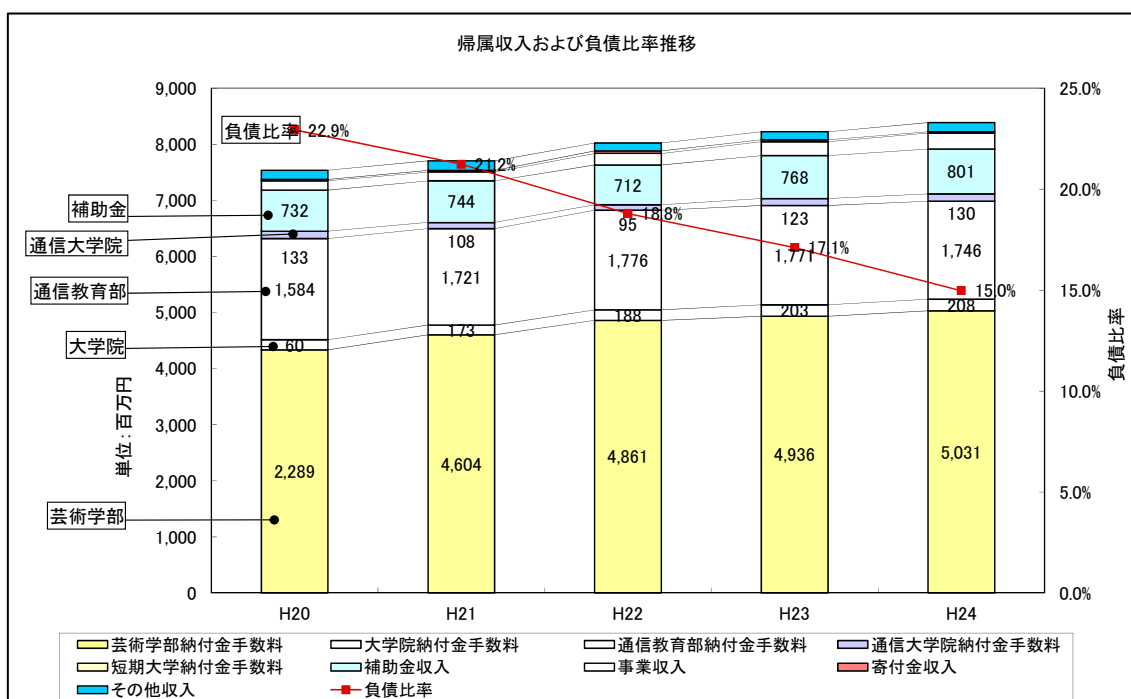
大学院（修士）	
キプロス	1
韓国	7
台湾	12
中国	23
タイ	1
ロシア	1
ウルグアイ	1
インドネシア	1
ブラジル	1
	48

大学院（博士）	
ロシア	1
イタリア	1
韓国	3
台湾	2
中国	2
	9

## ■平成24年度財務状況報告

### 1. 概況

平成24年度決算では帰属収入が8,387百万円となり、昨年度の8,224百万円から163百万円の増加、平成17～18年度に定員超過率の是正のため入学者を抑制した後、一貫して増加を続けている。平成23年度と比較すると、学生生徒納付金と手数料収入の合計が通信教育部で若干減少しているものの、その他の課程で増加している。平成13年度にピークだった長期借入金10,864百万円は順調に返済が進み、平成21年度に未来館購入のための調達した714百万円についても、平成24年度に完済した。これにより、借入金の残高が2,942百万円と3,000百万円を下回り、負債比率(前受金除く)はピーク時の47.5%から15.0%となった。



単位: 百万円

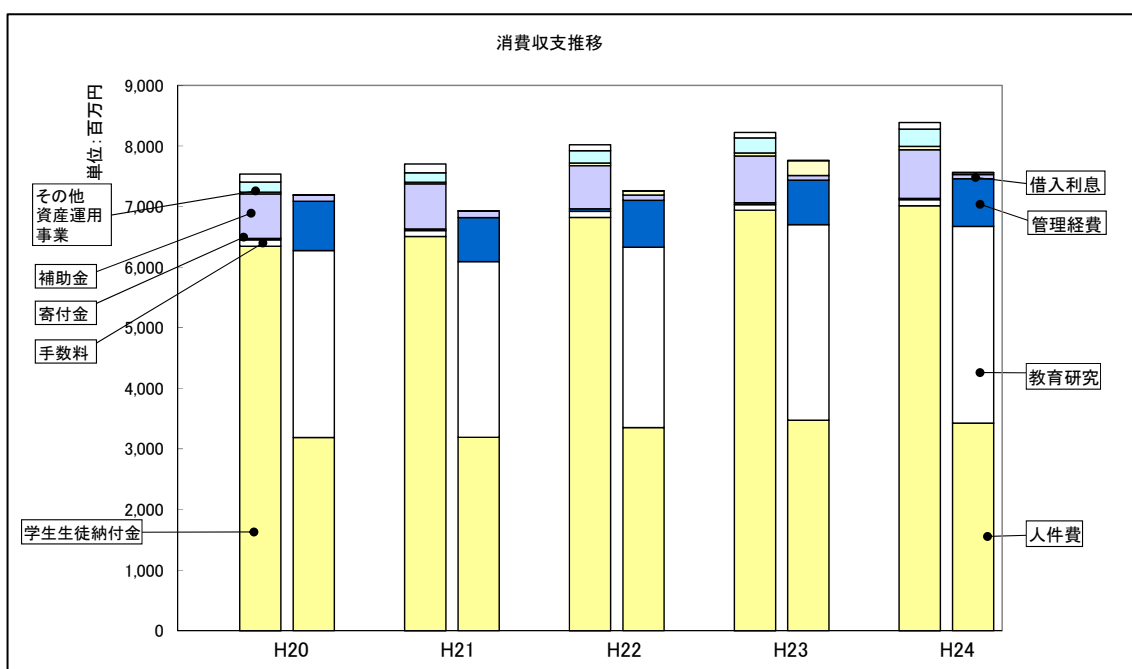
	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年
通学部納付金+手数料	3,758	4,380	4,345	4,167	3,988	4,165	4,335	4,604	4,861	4,936	5,031
大学院納付金+手数料	96	110	140	161	168	178	181	173	188	203	208
通信教育部納付金+手数料	1,750	1,760	1,925	1,994	1,950	1,876	1,802	1,721	1,776	1,771	1,746
通信大学院納付金+手数料						78	133	108	95	123	130
補助金収入	735	603	722	600	603	642	732	744	712	768	801
事業収入	102	112	106	125	145	157	165	157	206	246	285
寄付金収入	19	61	23	1,508	24	70	25	27	43	34	22
その他収入	188	119	48	63	125	71	165	170	140	143	164
<b>帰属収入合計</b>	<b>6,648</b>	<b>7,144</b>	<b>7,309</b>	<b>8,617</b>	<b>7,004</b>	<b>7,237</b>	<b>7,538</b>	<b>7,703</b>	<b>8,021</b>	<b>8,224</b>	<b>8,387</b>
借入金	9,876	8,253	7,110	6,289	5,505	5,034	5,165	4,875	4,231	3,587	2,942
負債比率(前受金除く)	43.6%	37.7%	33.1%	27.8%	24.8%	23.0%	22.9%	21.2%	18.8%	17.1%	15.0%



## 2. 収支の状況

平成24年度のキャッシュフロー\*は1,743百万円、帰属収入比20.5%となり、同規模法人平均値14.1%(平成22年度)と比して高い水準となった。帰属収入に対する消費支出の比率が90.2%となり、同規模法人平均値97.2%と比して良好な水準を保っている。また、人件費比率も平成23年度に退職給与引当金特別繰入の処理が完了し、40.9%となった。教育研究経費比率は38.7%と、同規模法人平均34.4%を上回っている。以上、収支の状況は比較的良好であるものの、平成24年度より着手している校舎の耐震対策工事、老朽化した校舎の改修工事などの事業が継続して見込まれることから、現状の収支水準を維持しながら、ストックの健全化を図りたい。

\*キャッシュフロー：帰属収入－消費支出－現物寄付－資産売却差額＋減価償却＋資産処分差額



単位：百万円

	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年	
学生生徒納付金	6,197	87%	5,990	86%	6,189	86%	6,347	84%	6,507	84%	6,820	85%	6,940	84%	7,017	84%
手数料	124	2%	116	2%	108	1%	105	1%	99	1%	101	1%	92	1%	99	1%
寄付金	1,508	21%	24	0%	70	1%	25	0%	27	0%	43	1%	34	0%	22	0%
補助金	600	8%	603	9%	642	9%	732	10%	744	10%	712	9%	768	9%	801	10%
資産運用事業	20	0%	19	0%	24	0%	30	0%	25	0%	43	1%	52	1%	56	1%
その他収入	125	2%	145	2%	157	2%	165	2%	157	2%	206	3%	246	3%	285	3%
その他収入	43	1%	106	2%	47	1%	135	2%	145	2%	97	1%	91	1%	107	1%
帰属収入合計	8,617	100%	7,004	100%	7,237	100%	7,538	100%	7,703	100%	8,021	100%	8,224	100%	8,387	100%
基本金組入	△ 2,391	-21%	△ 883	-13%	△ 1,540	-21%	△ 1,604	-21%	△ 1,155	-15%	△ 1,110	-14%	△ 518	-6%	△ 1,432	-17%
消費収入合計	6,226	79%	6,121	87%	5,697	79%	5,934	79%	6,548	85%	6,912	86%	7,705	94%	6,955	83%

	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年	
人件費	2,779	39%	2,876	41%	2,937	41%	3,190	42%	3,192	41%	3,351	42%	3,474	42%	3,427	41%
教育研究経費	2,905	41%	2,840	41%	3,090	43%	3,084	41%	2,900	38%	2,981	37%	3,230	39%	3,245	39%
管理経費	625	9%	656	9%	699	10%	814	11%	727	9%	771	10%	733	9%	788	9%
利息	143	2%	125	2%	111	2%	102	1%	105	1%	88	1%	76	1%	67	1%
資産処分等	8	0%	191	3%	15	0%	4	0%	5	0%	69	1%	245	3%	35	0%
消費支出合計	6,461	91%	6,688	95%	6,853	95%	7,193	95%	6,929	90%	7,260	91%	7,758	94%	7,563	90%

キャッシュフロー	1,385	16%	1,246	18%	1,099	15%	1,100	15%	1,555	20%	1,649	21%	1,732	21%	1,743	21%
----------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----

## ■ 学校法人会計と企業会計の相違点について

資金収支計算書は当該年度の教育研究活動に伴う全ての収入・支出の資金の流れを示したもので、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いものとなっている。消費収支計算書は、当該年度の収入・支出の損益を示したもので、企業会計の損益計算書に相当するものである。基本金組入額は、学校運営で必要となる基本的な設備・備品(校地・校舎・備品・図書等)の資金的支出に充当するためのものである。資金収支計算書で本学園の1年の活動を、消費収支計算書で経営状態を、また貸借対照表で財務状態をご理解ください。

## ■ 平成24年度決算報告

### 1. 消費収支計算書

平成24年度は帰属収入が8,387百万円、消費支出が7,563百万円となり、予算に対し決算では収支差額が増加した。手数料は志願者の確定によるもの、事業収入は公開講座受講料収入(藝術学舎)と受託事業収入の確定によるもの、教育研究経費と管理経費は施設設備関係支出も含めた支出科目の確定によるものである。

### 2. 資金収支計算書

収入の部、支出の部合計ともに予算額より54百万円減の11,427百万円となった。収入の部では手数料収入および事業収入は消費収支の項と同様。前受金収入221百万円減少は決算による確定。資金収入調整勘定は補助金の期末未収入金計上によるものである。

教育研究経費支出、施設関係支出および設備関係支出の増減は、決算に伴う科目確定によるものである。また管理経費支出は通信教育部新学科設置などによる広報活動費の増加によるもの。

結果、次年度繰越支払資金が3,149百万円となり、前受金3,042百万円を超える結果となった。

### 3. 貸借対照表

資産の部については、建物の減価償却による減少、現預金の減少などにより974百万円の減少となった。現預金の減少は通学課程在学生の授業料支払期日を4月10日にしたことによる。長期借入金は返済一年以内のものも含め2,948百万円となり、前受金除く負債率が15.0%となった。

## 財 産 目 録

(平成25年3月31日現在)

I 資産総額		25,083,807,325 円
内 基本財産		21,046,097,912 円
運用財産		4,037,709,413 円
収益事業財産		0 円
II 負債総額		6,797,856,993 円
III 正味財産		18,285,950,332 円

区分	金額
資産額	
1基本財産	
土地	75,339 m <sup>2</sup> 5,385,330,962 円
建物	67,012 m <sup>2</sup> 13,178,034,602 円
図書	184,545 冊 851,678,707 円
教具・校具・備品	6,492 点 1,127,495,057 円
その他	503,558,584 円
2運用財産	
現金預金	3,148,585,783 円
その他	889,123,630 円
3収益事業用財産	
	0 円
資産総額	25,083,807,325 円
負債額	
1固定負債	
長期借入金	2,544,030,000 円
その他	525,623,155 円
2流動負債	
短期借入金	404,250,000 円
その他	3,323,953,838 円
負債総額	6,797,856,993 円
正味財産（資産総額－負債総額）	18,285,950,332 円

## 貸借対照表

平成25年3月31日

(単位：円)

資産の部					
科	目	本年度末	前年度末	増	減
固定資産		21,600,176,689	21,594,105,799		6,070,890
有形固定資産		21,070,531,000	21,205,719,026	△	135,188,026
土地		5,450,325,302	5,450,325,302		0
建物		13,313,471,822	13,468,581,196	△	155,109,374
その他の有形固定資産		2,306,733,876	2,286,812,528		19,921,348
その他の固定資産		529,645,689	388,386,773		141,258,916
流動資産		3,483,630,636	4,463,653,757	△	980,023,121
現金・預金		3,148,585,783	4,180,668,681	△	1,032,082,898
その他の流動資産		335,044,853	282,985,076		52,059,777
資産の部合計		25,083,807,325	26,057,759,556	△	973,952,231
負債の部					
科	目	本年度末	前年度末	増	減
固定負債		3,069,653,155	3,478,094,365	△	408,441,210
長期借入金		2,544,030,000	2,948,280,000	△	404,250,000
その他の固定負債		525,623,155	529,814,365	△	4,191,210
流動負債		3,728,203,838	5,118,281,129	△	1,390,077,291
短期借入金		404,250,000	638,250,000	△	234,000,000
その他の流動負債		3,323,953,838	4,480,031,129	△	1,156,077,291
負債の部合計		6,797,856,993	8,596,375,494	△	1,798,518,501
基本金の部					
科	目	本年度末	前年度末	増	減
第1号基本金		28,397,868,376	26,965,999,752		1,431,868,624
第4号基本金		509,000,000	509,000,000		0
基本金の部合計		28,906,868,376	27,474,999,752		1,431,868,624
消費収支差額の部					
科	目	本年度末	前年度末	増	減
翌年度繰越消費支出超過額		10,620,918,044	10,013,615,690		607,302,354
消費収支差額の部合計		△ 10,620,918,044	△ 10,013,615,690	△	607,302,354
科	目	本年度末	前年度末	増	減
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計		25,083,807,325	26,057,759,556	△	973,952,231

資 金 収 支 計 算 書

平成24年4月 1日から  
平成25年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	7,016,017,000	7,016,612,125	△ 595,125
手数料収入	73,782,000	98,837,600	△ 25,055,600
寄付金収入	13,224,000	13,754,436	△ 530,436
補助金収入	798,675,000	801,207,667	△ 2,532,667
国庫補助金収入	734,784,000	734,784,000	0
その他の国庫補助金収入	63,598,000	66,102,605	△ 2,504,605
地方公共団体補助金収入	293,000	321,062	△ 28,062
資産運用収入	49,434,000	56,233,911	△ 6,799,911
資産売却収入	0	10,000,000	△ 10,000,000
事業収入	145,706,000	285,133,314	△ 139,427,314
雑収入	103,551,000	108,459,970	△ 4,908,970
前受金収入	3,263,678,000	3,042,257,380	221,420,620
その他の収入	88,201,000	93,783,643	△ 5,582,643
資金収入調整勘定	△ 4,251,527,000	△ 4,279,722,843	28,195,843
前年度繰越支払資金	4,180,668,000	4,180,668,681	
収入の部合計	11,481,409,000	11,427,225,884	54,183,116

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,442,803,000	3,430,750,947	12,052,053
教育研究経費支出	2,521,348,000	2,381,226,692	140,121,308
管理経費支出	678,967,000	761,491,160	△ 82,524,160
借入金等利息支出	67,712,000	67,356,407	355,593
借入金等返済支出	638,250,000	638,250,000	0
施設関係支出	631,989,000	661,731,543	△ 29,742,543
設備関係支出	141,566,000	256,594,370	△ 115,028,370
資産運用支出	16,831,000	16,301,406	529,594
その他の支出	179,275,000	223,800,074	△ 44,525,074
[予備費]	0		0
資金支出調整勘定	△ 102,229,000	△ 158,862,498	56,633,498
次年度繰越支払資金	3,264,897,000	3,148,585,783	116,311,217
支出の部合計	11,481,409,000	11,427,225,884	54,183,116

消費収支計算書

平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで

消費収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	7,016,017,000	7,016,612,125	△ 595,125
手数料	73,782,000	98,837,600	△ 25,055,600
寄付金	18,224,000	21,641,399	△ 3,417,399
補助金	798,675,000	801,207,667	△ 2,532,667
国庫補助金	734,784,000	734,784,000	0
その他の国庫補助金	63,598,000	66,102,605	△ 2,504,605
地方公共団体補助金	293,000	321,062	△ 28,062
資産運用収入	49,434,000	56,233,911	△ 6,799,911
事業収入	145,706,000	285,133,314	△ 139,427,314
雑収入	103,551,000	107,492,239	△ 3,941,239
帰属収入合計	8,205,389,000	8,387,158,255	△ 181,769,255
基本金組入額合計	△ 1,411,805,000	△ 1,431,868,624	20,063,624
消費収入の部合計	6,793,584,000	6,955,289,631	△ 161,705,631

消費支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,446,753,000	3,426,648,707	20,104,293
教育研究経費	3,362,842,000	3,245,295,966	117,546,034
管理経費	709,237,000	787,976,579	△ 78,739,579
借入金等利息	67,712,000	67,356,407	355,593
資産処分差額	39,707,000	34,948,866	4,758,134
徴収不能額	200,000	365,460	△ 165,460
[予備費]	0	0	0
消費支出の部合計	7,626,451,000	7,562,591,985	63,859,015
当年度消費支出超過額	832,867,000	607,302,354	
前年度繰越消費支出超過額	10,013,615,690	10,013,615,690	
翌年度繰越消費支出超過額	10,846,482,690	10,620,918,044	

平成 25 年 5 月 24 日

## 監 査 報 告 書

学校法人瓜生山学園  
理事会 御中

監 事 齋藤利一郎 

監 事 松芝政雄 

監 事 湊信明 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人瓜生山学園寄附行第 7 条の規定に基づく監査報告を行うため、学校法人瓜生山学園の平成 24 年度（平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況について監査を行った。

監査の方法は、理事会及び評議員会、他重要な会議に出席したほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な書類等を閲覧するとともに会計監査人と連携し、必要と思われる監査を行った。


監査の結果、学校法人瓜生山学園の業務は適正であり、計算書類等は当該年度末における財産の状況を適正に表示しており、学校法人の業務または財産に関し不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。


以上


平成 25 年 5 月 24 日

## 監 査 報 告 書

学校法人瓜生山学園  
評議員会 御中

監 事 萩 藤 利 一 郎 

監 事 松 芝 政 雄 

監 事 湊 信 明 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人瓜生山学園寄附行第 7 条の規定に基づく監査報告を行うため、学校法人瓜生山学園の平成 24 年度（平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況について監査を行った。

監査の方法は、理事会及び評議員会、他重要な会議に出席したほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な書類等を閲覧するとともに会計監査人と連携し、必要と思われる監査を行った。

監査の結果、学校法人瓜生山学園の業務は適正であり、計算書類等は当該年度末における財産の状況を適正に表示しており、学校法人の業務または財産に関し不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以上